

創立70周年記念誌

行田市体育協会のあゆみ

平成21年度～平成30年度まで

行田市体育協会

目 次

あいさつ

行田市体育協会会長・行田市長 石井 直彦	1
60周年以降の市体協のあゆみ	2
協会役員・加盟団体長の変遷	4
創立70周年記念表彰受賞者	6

行田市体育協会主要事業の変遷

行田市鉄剣マラソン大会	10
市民体育祭	16
“浮き城のまち行田” 駅伝競走大会	22

行田市体育協会加盟団体のあゆみ

《地区体育協会》

忍地区体育協会	26
行田地区体育協会	28
佐間地区体育協会	30
持田地区体育協会	32
星河地区体育協会	34
長野地区体育協会	36
荒木地区体育協会	38
須加地区体育協会	40
北河原地区体育協会	42
埼玉地区体育協会	44
星宮地区体育協会	46
太井地区体育協会	48
下忍地区体育協会	50
太田地区体育協会	52
南河原地区体育協会	54

《種目別競技団体》

行田市野球連盟	58
行田市バレーボール連盟	60
行田市ソフトテニス連盟	62
行田市卓球連盟	64
行田市バドミントン連盟	66
行田市柔道連盟	68
行田市剣道連盟	70

行田市アーチェリー協会	72
行田市スキー連盟	74
行田市山の会	76
行田市陸上競技協会	78
行田市民踊レクリエーション協会	80
行田市空手道連盟	82
行田市水泳連盟	84
行田市小学校体育連盟	86
行田市中学校体育連盟	88
行田市弓道連盟	90
行田市体操連盟	92
行田市サッカー協会	94
行田市テニス協会	96
行田市ゲートボール協会	98
行田市リトルシニア野球協会	100
行田市ソフトボール協会	102
行田市婦人バレーボール協会	104
行田市バスケットボール連盟	106
行田市グラウンド・ゴルフ協会	108
行田市少林寺拳法連盟	110
行田市ミニテニス連盟	112
行田市ソフトバレーボール連盟	114
行田市ターゲット・バードゴルフ協会	116
行田市スポーツウエルネス吹矢協会	118
行田市フロアカーリング連盟	120
行田市学童スポーツ団体連絡協議会・スポーツ少年団	122
行田市居合道連盟	125
行田市スポーツ推進委員協議会	126
行田市体育協会規約	128
70周年記念事業役員名簿・編集後記	136



ごあいさつ

行田市体育協会会長

行 田 市 長

石 井 直 彦

行田市体育協会は、昭和24年5月、行田市の市制施行とともに13種目の競技団体の加盟により創立され、以来本市のスポーツ振興の中核を担い、現在では50団体が加盟する組織にまで発展し、本年、記念すべき70周年を迎えることができました。

これもひとえに、スポーツを愛する市民の皆様のご協力はもちろんのこと、本市スポーツの振興・発展にご尽力をいただいている指導者の皆様、関係機関の皆様のたゆまぬご努力の賜物と深く感謝申し上げます。

振り返りますと、創立当時は、競技種目も少なく、主として競技諸団体を中心とした活動が展開されておりました。しかし、昭和35年に市内14の地区体育協会が発足・加盟したことにより、その活動範囲が各地域にまで広がると、それまでの競技志向重視の考え方から、市民誰もが気軽に楽しむことができる生涯スポーツ・レクリエーションの普及・推進を中心とした活動へと大きく様変わりしてまいりました。その後も1地区体育協会をはじめ、各種目別競技団体など着実に加盟団体を増やし、また、友好都市締結を契機に三重県桑名市・福島県白河市との3市によるスポーツを通じた交流事業を実施するなど、一步一步あゆみを進め、名実ともに本市スポーツ事業の推進母体として充実・発展を遂げてまいりました。

現在では、このような地道な活動が実を結び、老若男女を問わず、生涯スポーツが市民生活の中にしっかりと根付くとともに、市民相互の連帯意識の高揚、そして地域活動の活性化を図る上でも大きな原動力となっております。地域コミュニティの希薄化が叫ばれて久しい現代において、市体育協会が担う役割というものは非常に重要であると認識しているところでございます。

「平成」が終わり「令和」となる新しい時代は、「人生100年時代」とも言われる超高齢社会を迎えます。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、スポーツを通じた健康・体力づくりへの関心と期待は益々高まっています。

こうした時代の要請に応えるべく、市体育協会では「生涯スポーツの振興」、「競技力の向上」、そして「スポーツ団体等の健全育成と組織の充実」の3つの柱を事業目標に掲げ、その実現に向け鋭意努めてまいります。

今後におきましても、市及び教育委員会をはじめ、市民の皆様、指導者・関係者の皆様のより一層のご支援・ご協力をお願い申し上げまして、あいさつといたします。

60周年以降の市体協のあゆみ

年度	行田市体育協会の主なあゆみ	主なできごと
平成21年	<ul style="list-style-type: none"> ・創立60周年記念式典・特別講演会 会場：教育文化センター「みらい」 講師 増田明美 氏 ・三市友好都市スポーツ交流事業（行田市開催） 種目：婦人バレーボール ・いきいきウォーキング（群馬県榛名山） ・スポーツ指導者研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回 ワールド・ベースボール・クラシックが開催され、日本代表が連覇を達成。 ・イチローがメジャー新記録となる9年連続200本安打を達成。
平成22年	<ul style="list-style-type: none"> ・副会長に 長谷見輝生 氏就任 ・理事長に 川嶋正義 氏就任 ・副理事長に 川上新一 氏就任 ・第60回記念大会市民体育祭開催 会場：総合公園自由広場 ・いきいきウォーキング（東京都高尾山） ・スポーツ指導者研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロ野球の金本知憲が1492試合連続フルイニング出場の世界記録を樹立。 ・全国高等学校野球選手権大会で、沖縄県代表の興南高校が春・夏連覇を達成。
平成23年	<ul style="list-style-type: none"> ・三市友好都市スポーツ交流事業（白河市開催） 種目：婦人バレーボール ・いきいきウォーキング（千葉県館山市） ・スポーツ指導者研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・FIFA女子ワールドカップで、日本代表が初優勝。また、国民栄誉賞を受賞。 ・東日本大震災が発生。
平成24年	<ul style="list-style-type: none"> ・副会長に 中村猛 氏就任 ・行田市スポーツ吹き矢協会新加盟 ・いきいきウォーキング（長野県安曇野市） ・スポーツ指導者研修会 ・体育指導委員が、スポーツ推進委員へ名称変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロンドンオリンピックで、日本選手団は史上最多となる38個のメダルを獲得。 ・レスリングの吉田沙保里が国民栄誉賞を受賞。 ・第70代横綱日馬富士が誕生。 ・全国高校野球選手権大会で、大阪府代表の大阪桐蔭高校が、藤浪晋太郎の活躍もあり、春・夏連覇を達成する。
平成25年	<ul style="list-style-type: none"> ・三市友好都市スポーツ交流事業（桑名市開催） 種目：卓球 ・いきいきウォーキング（茨城県大洗市） ・スポーツ指導者研修会 ・第15回全国高等学校女子硬式野球選抜大会が行田市で開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年夏季オリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定する。 ・プロ野球の東北楽天ゴールデンイーグルスが、球団創設9年目にして初のリーグ優勝・日本シリーズ制覇を果たす。 ・大鵬幸喜、長嶋茂雄、松井秀喜が国民栄誉賞を受賞。
平成26年	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長に 町田真一 氏就任 ・副理事長に 竹内政行 氏就任 ・副理事長に 水内昌幸 氏就任 ・スポーツ指導者研修会 ・第30回行田市鉄剣マラソン大会記念事業 特別講演 スポーツジャーナリスト 増田明美 氏 「自分という人生の長距離ランナー」 ・いきいきウォーキング（群馬県上野村） ・スポーツ指導者講習会 健康管理士 竹下浩一 氏 「スポーツ活動中の熱中症対策と水分補給」 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本独立リーグ野球機構が発足。 ・ソチオリンピックが開幕。 ・スノーボード男子ハーフパイプで、平野歩夢が銀メダルを獲得。15歳2ヶ月でのメダル獲得は、冬季オリンピックの日本人史上最年少記録を更新。 ・男子フィギュアスケートで、羽生結弦が日本人史上初めて金メダルを獲得。



年度	行田市体育協会の主なあゆみ	主なできごと
平成 27 年	<ul style="list-style-type: none"> • 副会長に 森郁子 氏就任 • 行田市フロアカーリング連盟新加盟 • スポーツ指導者研修会 • 三市友好都市スポーツ交流事業（行田市開催） 種目：ソフトテニス • スポーツ指導者講習会 健康管理士 竹下浩一 氏 「スポーツ活動中の熱中症対策と水分補給」 	<ul style="list-style-type: none"> • 横綱白鵬が、33回目の幕内優勝を決め、元横綱大鵬の32回を超え、歴代最多優勝記録を更新。 • 第70回記念国民体育大会が和歌山県で開幕。
平成 28 年	<ul style="list-style-type: none"> • 副理事長に 関口尚子 氏就任 • スポーツ指導者講習会 健康管理士 竹下浩一 氏 「スポーツ活動中の熱中症対策と水分補給」 • スポーツ指導者研修会 • NPO法人全国ラジオ体操連盟公認指導士を迎え、ラジオ体操普及事業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> • リオデジャネイロオリンピックが開幕。日本は金12個、銀8個、銅21個の合計41個のメダルを獲得。 • 卓球ワールドカップ女子シングルスで、平野美宇が日本選手として大会初優勝かつ大会史上最年少優勝を果たす。 • レスリングの伊調馨が国民栄誉賞を受賞。
平成 29 年	<ul style="list-style-type: none"> • 三市友好都市スポーツ交流事業（白河市開催） 種目：卓球 • スポーツ指導者講習会 健康管理士 竹下浩一 氏 「スポーツ活動中の熱中症対策と水分補給」 • 市町村体育協会連絡会議開催（総合体育館） • スポーツ指導者研修会 	<ul style="list-style-type: none"> • スピードスケート世界スプリント選手権で、小平奈緒が日本女子選手として初の総合優勝を果たす。 • 第3回 ワールド・ベースボール・クラシックが開催。 • 世界卓球選手権混合ダブルスで、吉村真晴&石川佳純組が勝利し、48年ぶりとなる世界選手権優勝を果たす。
平成 30 年	<ul style="list-style-type: none"> • 副会長に 鈴木トミ江 氏就任 • スポーツ指導者講習会 健康管理士 山田直広 氏 「スポーツ活動中の熱中症対策と水分補給」 • 体協創立70周年記念事業実行委員会発足 推進体位性組織 ○総務部会…総務、競技、学童委員会 ○記念誌部会…コミュニティ委員会 	<ul style="list-style-type: none"> • 全国高校野球選手権大会で、大阪府代表の大阪桐蔭高校が、史上初となる2度目の春・夏連覇を達成する。 • 第94回日本選手権水泳競技大会で、池江璃花子が出場全4種目で6つの日本記録を樹立、4冠を達成。 • フィギュアスケートの羽生結弦が国民栄誉賞を受賞。

協会役員・加盟団体長の変革

役職名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
会 長	工藤 正司									
副 会 長	丸山 綱男			中村 猛			森 郁子			鈴木トミ江
副 会 長		長谷見輝生								
理 事 長	長谷見輝生	川嶋 正義				町田 眞一				
副 理 事 長	川嶋 正義	河野 初江								
副 理 事 長	河野 初江	町田 眞一				川上 新一				
副 理 事 長	町田 眞一	川上 新一				水内 昌幸				
副 理 事 長						竹内 政行				
副 理 事 長								関口 尚子		
加盟団体名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
忍地区体育協会	谷口 允良									
行田地区体育協会	秋元 保									
佐間地区体育協会	竹内 政行									
持田地区体育協会	杉本七三夫		大野 隆身			横田 香				
星河地区体育協会	高橋 健二					河野 充晴				
長野地区体育協会	松本 安夫			中川 和久						
荒木地区体育協会	森田 敏一							大木 浩二		
須加地区体育協会	長谷川浩一			園部 秀夫						飯塚 圭一
北河原地区体育協会	手嶋 伸							大塚 高雄		
埼玉地区体育協会	田島 清子		鈴木 英也							
星宮地区体育協会	加藤 誠一									
太井地区体育協会	園田佳代子	関 充雄		千枝 幸雄		加藤 英雄		早野 勉		佐藤 範夫
下忍地区体育協会	吉澤 宏		荒井 稔		後藤 正幸		柴田 隆明		荻原 俊治	
太田地区体育協会	坂本 陽誌					江川 直一	小倉 晴美		平社 正俊	
南河原地区体育協会	今田 博			今村 正次						
野球連盟	大澤 邦夫							東泉 嘉一		
バレーボール連盟	伊藤 健二					清水 一男				
ソフトテニス連盟	坂野 一己									
卓球連盟	伊藤 富康									田島 直也
バドミントン連盟	田沼 正子					長谷川紀佳				
柔道連盟	村田 次郎			木村 靖文						
剣道連盟	加藤 輝男					南澤 馨				廣島 正人
アーチェリー協会	小林 良一									



加盟団体名	H2 1	H2 2	H2 3	H2 4	H2 5	H2 6	H2 7	H2 8	H2 9	H3 0
射撃連盟	綿貫 隆夫									
スキー連盟	村田 一彦									田澤 健一
山の会	河田 克己									宮崎 薫
陸上競技協会	奥泉 昇									
民謡レクリエーション協会	藤井すい子									
空手道連盟	鈴木 民儀							西村 和宏		
水泳連盟	金田 和憲									
小学校体育連盟	田部井博一	栗本 賢一				石川 徳男				柿沼 耕一
中学校体育連盟	荻山 芳朗	片桐 雅章		吉野 道博		池野 透				
弓道連盟	林 芳郎			中島 憲一						
体操連盟	矢嶋 太一									
サッカー協会	野口 英昭		栗原 美雄							
テニス協会	吉田 隆	山口 和之								
ゲートボール協会	斉藤 和夫									
リトルシニア野球協会	鈴木 聖二									
フォークダンス連盟	栗原 禎子	石川あや子								
ソフトボール協会	田口 英樹			谷口 允良				竹内 信吉		
婦人バレーボール協会	斉藤八代子					鈴木 睦子				
バスケットボール協会	川上 新一									
グラウンド・ゴルフ協会	筑脇 金次									
居合道連盟	小暮 恵									
少林寺拳法連盟	島田 政雄									
ミニテニス連盟	羽山 隆司									
ソシアルダンス連盟	小谷野一敏									
ソフトバレーボール連盟	成田 幸夫									
ターゲット・パドゴルフ	三瓶 三好			石井 直彦						渡辺 茂男
スポーツウエリネス吹矢協会			窪田 俊司		黒田 修弘		江森 暉		内藤 賢一	
フロアカーリング連盟							園部 秀夫			
学童スポーツ団体連絡協議会	小松原和夫					水内 昌幸				
スポーツ少年団	田口 英樹									
スポーツ推進委員協議会	川嶋 二郎					玉木 民雄				

創立70周年記念表彰受賞者

(順不同・敬称略)

【特別表彰】

団 体

テイ・エステック ○2009年～2018年全国青年バスケットボール大会出場
(バスケットボール協会)

個 人

関口 清乃 ○2015年 第3回全国高等学校陸上競技選抜大会 ハンマー投げ 優勝
(佐間地区体育協会) ○2015年 第31回日本ジュニア陸上競技選手権大会 ハンマー投げ 優勝
○2015年 順天堂大学競技会 56m84 ハンマー投げ 高校記録更新
○2016年 第17回アジアジュニア陸上競技選手権大会 ハンマー投げ 出場
○2016年～2018年 日本学生陸上競技対抗選手権大会 ハンマー投げ 出場
○2016年 第32回日本ジュニア陸上競技選手権大会 ハンマー投げ 優勝

五十幡 亮汰 ○2013年 第40回全日本中学校陸上競技選手権大会 100m 優勝
(長野地区体育協会) ○2013年 第40回全日本中学校陸上競技選手権大会 200m 優勝
○2013年 第68回国民体育大会成年少年共通 4×100mリレー 優勝

新井 咲姫瑛 ○2014年～2017年 全日本一輪車競技大会 出場
(須加地区体育協会) (2014年 5kmの部 優勝)

新井 誉悠 ○2014年～2018年 全日本一輪車競技大会 出場
(須加地区体育協会) (2014年 5kmの部 優勝)

大西 武士 ○2011年 平成23年度日本ソフトテニス連盟支部功労賞 受賞
(ソフトテニス連盟)

大谷 信喜 ○2013年～2016年 全国柔道高段者大会 出場
(柔道連盟)

小林 憲治 ○2009年、2012年～2017年 全国柔道高段者大会 出場
(柔道連盟)

松井 孝夫 ○2008年～2017年 全日本ターゲットアーチェリー選手権大会 出場
(アーチェリー協会) ○2010年～2012年、2014年～2018年 全日本社会人ターゲット選手権
大会 出場 (2011年 壮年の部)
○2012年 国民体育大会 団体優勝



五十嵐 達郎
(空手道連盟)

○2009年～2018年 公益社団法人日本空手協会主催 全日本選手権大会出場
○2009年～2012年、2013年、2015年～2017年全日本空手道選手権大会出場
○2010年 平成22年度全日本大学空手道選手権大会団体組手 優勝
○2011年 平成23年度全日本大学空手道選手権大会団体組手 優勝
○2018年 内閣総理大臣杯 第61回全国空手道選手権大会 団体組手 優勝

村田 一彦
(スキー連盟)

○2014年～2017年 全日本マスターズ選手権 出場

川嶋 二郎

(スポーツ推進委員協議会)

○2008年 平成20年度全国体育指導委員連合 功労者表彰 受賞
○2011年 平成23年度全国スポーツ推進委員連合 文部科学大臣表彰 受賞

玉木 民雄

(スポーツ推進委員協議会)

○2018年 平成30年度全国スポーツ推進委員連合 功労者表彰 受賞

【一般表彰】

新井 精一 (忍地区体育協会)
肥留川 和久 (佐間地区体育協会)
根岸 久夫 (持田地区体育協会)
松本 健治 (星河地区体育協会)
小倉 光之 (長野地区体育協会)
北岡 勝也 (荒木地区体育協会)
園部 秀夫 (須加地区体育協会)
手嶋 伸 (北河原地区体育協会)
鈴木 英也 (埼玉地区体育協会)
小倉 實 (野球連盟)
伊藤 健二 (バレーボール連盟)
北 正三 (ソフトテニス連盟)
須永 和男 (バドミントン連盟)
木村 靖文 (柔道連盟)
加藤 輝男 (剣道連盟)

福島 恭司 (陸上競技協会)
藤井 すい子 (民謡レクリエーション協会)
関根 和子 (水泳連盟)
大膳 延之 (小学校体育連盟)
矢嶋 太一 (体操連盟)
谷口 允良 (ソフトボール協会)
鈴木 陸子 (婦人バレーボール協会)
川上 新一 (バスケットボール協会)
筑 肱金次 (グラウンド・ゴルフ協会)
山口 博之 (少林寺拳法連盟)
羽山 隆司 (ミニテニス連盟)
成田 幸夫 (ソフトバレーボール連盟)
鈴木 民儀 (空手道連盟)
松浦 光一 (ターゲット・パードゴルフ協会)
野口 琢磨 (フロアカーリング連盟)

【感謝状】

工藤 正司 (体育協会会長：2007年～2018年)
丸山 綱男 (体育協会副会長：2008年～2011年)
長谷見 輝生 (体育協会副会長：2010年～2016年)
中村 猛 (体育協会副会長：2012年～2014年)
森 郁子 (体育協会副会長：2015年～2017年)
川嶋 正義 (体育協会理事長：2010年～2013年)



行田市体育協会主要事業の変遷

行田市鉄剣マラソン大会

市民体育祭

“浮き城のまち行田” 駅伝競走大会

行田市鉄剣マラソン大会

1. 沿革

行田市鉄剣マラソン大会は、平成31年4月で第35回大会という、大きな節目の大会を迎えた。

この行田市鉄剣マラソン大会は、昭和60年4月21日、これまでの行田市長杯ロードレース大会を発展・継承させる大会としてスタートした。

前身である行田市長杯ロードレース大会は、開催回数17回を数え、県下でも有数のレベルの高い大会として位置づけられていた。そのため、多くの有名ランナーが参加するものの、一般市民ランナーの参加が難しい、参加者が限られた大会になりつつあった。

そのような中、健康に対する市民の関心の高まりや市民ランナーの増加とともに、誰でも気軽に参加できる「市民大衆マラソン」の開催を望む声が多くなってきた。

このような社会の変化とともに市民意識の変化に対応し、「行田市鉄剣マラソン大会」が誕生した。なお、鉄剣マラソンの名称は、さきたま古墳群の稲荷山古墳から古代ロマンを秘めた「115文字の金錯銘鉄剣」が出土され、国宝に指定されたことを記念し、「金錯銘鉄剣」から名付けられ、以後、鉄剣マラソン大会として市民ランナーやマラソン愛好者に広く親しまれている。

第1回行田市鉄剣マラソン大会は、水城公園を会場に、さきたま古墳公園を折り返しとする市の史跡を巡るコースを設定し、927名の参加者を得て開催された。この大会から、多くの市民が誰でも参加できるよう、種目や部門を増やし、本市を県内外の人々に紹介する大会として発展してきた。しかし、都市化の進行とともに交通量の増加に伴い、コース設定における交通規制が年々難しくなり、平成9年に行われた第13回大会より、行田市総合体育館を会場に市北部田園コースを設定し、新たなスタートをした。

毎年の大会において参加者に大会に係るアンケートを記帳いただいている中、大会参加者や市民の皆様から、市北部田園コースについて一定の評価をいただいているものの、大会名称から受けるイメージなどから、さきたま古墳を走るコースを

希望する声が多く、新コース設定に向け、実行委員会及び関係機関との協議・検討を行いながら、コース検討委員会を設け、平成19年に行われた第23回大会より、古代蓮の里を会場にさきたま古墳群を含むコースとして新たにスタートした。第35回大会では、特別ゲストに瀬古利彦さん、ゲストランナーに増田明美さんを迎え、4520名の参加申し込みを得て盛大に開催された。

鉄剣マラソン大会は歴史と伝統を受け継ぎ、今後ますます継続・発展していく大会として、期待されている。



(写真：第25回大会)

2. 行田市鉄剣マラソン大会の変遷

○第1回行田市鉄剣マラソン大会

「埼玉県名発祥の地、古代遺跡のねむるまち、行田市でさわやかな汗を流そう」をスローガンに、これまでの行田市長杯ロードレース大会を受け継ぎ、第1回大会が開催される。

期 日：昭和60年4月21日（日）

会 場：水城公園

コース：水城公園～さきたま古墳～さきたま農協先折り返し

申込者数：972名

○第13回行田市鉄剣マラソン大会

会場及びコースを大幅に変更し、総合体育館を会場に市北部田園コースで開催される。

コース設定において、国道125号バイパスの横断と県道妻沼羽生線の走行が課題となったが、アンダーを使用するなど工夫した。

期 日：平成9年4月6日（日）

会 場：総合体育館

コース：総合体育館～南河原中学校～北河原小学校～見沼元塚公園～斎条団地～総合体育館

申込者数：2709名

○第23回行田市鉄剣マラソン大会

会場及びコースを大幅に変更し、古代蓮の里を会場にさきたま古墳群を含む周回コースで開催される。

コース設定において、武蔵水路道路の横断と主要地方道行田蓮田線の横断が課題となったが、関係機関の協力により運営できた。

期 日：平成19年4月1日（日）

会 場：古代蓮の里

コース：古代蓮の里～見沼代用水～太田東小学校～さきたま緑道～さきたま古墳公園～古代蓮の里

申込者数：3134名

○陸王杯第33回行田市鉄剣マラソン大会

行田市が舞台となった大ヒット小説「陸王」から、「陸王杯」を冠し開催される。

期 日：平成29年4月2日（日）

会 場：古代蓮の里

コース：古代蓮の里～さきたま古墳群を含む市内周回コース

申込者数：3712名

○陸王杯第35回行田市鉄剣マラソン大会

市制施行70周年・体育協会創立70周年記念大会と称し、ゲストランナーに増田明美さん、特別ゲストに瀬古利彦さんを迎え、盛大に開催される。

期 日：平成31年4月28日（日）

会 場：古代蓮の里

コース：古代蓮の里～さきたま古墳群を含む市内周回コース

申込者数：4520名

3. 行田市鉄剣マラソン大会の今後の課題

行田市鉄剣マラソン大会は、前身の行田市長杯ロードレース大会と合わせると、50年以上という長い歴史と伝統のある県下有数の大会として成長、発展を遂げてきた。しかし、社会の変化や都市化の進行、交通量の増大化など、さまざまな要因に

よる課題を解決しながら、現在の大会に至っている。

埼玉県内の半数を超える市町村が同じような大会を開催している。このような状況の中で、今後の行田市鉄剣マラソン大会の在り方を考えた場合、次のような課題が挙げられる。

- ①参加選手の安全走行と快適な景観を楽しめるコースの策定。（コースの特色づくり）
- ②参加選手数の安定的確保
- ③参加選手数の増大に伴う運営。（会場・駐車場・交通手段等）
- ④市民の参加者の拡大と競技者の育成

今後、生涯スポーツ推進に寄与するとともに市民の健康の保持・増進と競技力の向上を促進し、さきたま古墳群などの観光資源の紹介や、行田市の観光事業の振興・発展に資するとともに、行田市を全国に発信できる一大スポーツイベントとして、これからも継続・発展させていきたい。



（写真：第30回大会）



（写真：34回大会）

行田市鉄剣マラソン大会の沿革

回数	開催日	参加人数	実行委員数	役員総数	部門	ゲスト	参加賞	入賞賞品	参加料	備考
第1回	S60.4.21	927	49	約280	10k 5k 3k ジョグ	根岸啓治様	鉄剣チョコ	1～6 トロフィー 賞状メダル 7～10 賞状	一般1,000 高校 500 中学 500 小学 100	水城公園を会場にさきたま古墳群を含む市内周回コース新設
第2回	S61.4.13	1,883	45	約280	10k 5k 3k ジョグ	根岸啓治様	鉄剣チョコメダル	1～6 トロフィー 賞状 7～10 賞状	一般1,000 高校 500 中学 500 小学 100	
第3回	S62.5.10	2,230	40	約300	10k 5k 3k ジョグ		布袋	1～6 トロフィー 賞状 Tシャツ 7～10 賞状・飛賞 タオル	一般1,000 高校 500 中学 500 小学 100	
第4回	S63.4.10	2,030	49	約300	10k 5k 3k ジョグ		布袋	1～6 トロフィー 賞状 Tシャツ 7～10 賞状	一般1,500 高校 500 中学 500 小学 200	
第5回	H1.4.9	2,131	44	約300	10k 5k 3k ジョグ		布袋	1～6 トロフィー 賞状 Tシャツ 7～10 賞状	一般1,500 高校 500 中学 500 小学 200	
第6回	H2.4.8	2,087	53	約300	10k 5k 3k ジョグ	山田敬蔵様	Tシャツ 布袋	1～6 トロフィー 賞状 Tシャツ 7～10 賞状	一般2,000 高校 500 中学 500 小学 200	
第7回	H.3.4.28	2,664	61	約300	10k 5k 3k ジョグ		Tシャツ 布袋	1～6 トロフィー 賞状 Tシャツ 7～10 賞状	一般2,000 高校 500 中学 500 小学 200	
第8回	H4.4.5	2,567	62	約300	10k 5k 3k ジョグ		Tシャツ 布袋	1～6 トロフィー 賞状 タオル 7～10 賞状	一般2,000 高校 500 中学 500 小学 200	
第9回	H5.4.4	2,489	65	約300	10k 5k 3k ジョグ	山田敬蔵様	Tシャツ 布袋	1～6 トロフィー 賞状 タオル 7～10 賞状	一般2,000 高校 500 中学 500 小学 300	
第10回	H6.4.3	2,700	65	約500	ハーフ 10k 5k 3k ジョグ	山田敬蔵様	Tシャツ 布袋	1～6 トロフィー 賞状 タオル 7～10 賞状	一般2,500 高校1,000 中学1,000 小学 300	



回数	開催日	参加人数	実行委員数	役員総数	部門	ゲスト	参加賞	入賞賞品	参加料	備考
第11回	H7.4.2	3,056	69	約500	ハーフ 10k 5k 3k ジョグ	山田敬蔵様 あさひ銀行様	Tシャツ 布袋 キーホルダー	1～6 トロフィー 賞状・タオル 7～10 賞状	一般2,500 高校1,000 中学1,000 小学 300	
第12回	H.8.4.7	2,584	62	約540	ハーフ 10k 5k 3k ジョグ	あさひ銀行様	Tシャツ 布袋 キーホルダー	1～6 トロフィー 賞状 タオル 7～10 賞状	一般2,500 高校1,000 中学1,000 小学 300	
第13回	H.9.4.6	2,709	69	約460	ハーフ 10k 5k 3k ジョグ		Tシャツ タオル	1 楯輪カップ 盾・賞状 2～6 トロフィー 賞状・Tシャツ 7～10賞状	一般3,000 高校1,000 中学1,000 小学 300	総合体育館を 会場に市北部 コースへ移行
第14回	H10.4.5	2,486	69	464	ハーフ 10k 5k 3k 1k ジョグ	山田敬蔵様	Tシャツ タオル	1 楯輪カップ 盾・賞状 2～6 トロフィー 賞状・Tシャツ 7～10賞状	一般3,000 高校2,000 中学1,000 小学 300	
第15回	H.11.4.4	2,126	87	501	ハーフ 10k 5k 3k 1k ジョグ	山田敬蔵様	タオル	1 楯輪カップ 盾・賞状 2～6 トロフィー 賞状・Tシャツ 7～10賞状	一般3,000 高校2,000 中学1,000 小学 300	
第16回	H.12.4.2	2,160	89	545	ハーフ 10k 5k 3k 1k ジョグ	山田敬蔵様	タオル	1 楯輪カップ 盾・賞状 2～6 トロフィー 賞状・Tシャツ 7～10賞状	一般3,000 高校2,000 中学1,000 小学 300	
第17回	H13.4.1	2,188	87	485	ハーフ 10k 5k 3k 1k ジョグ		タオル	1 楯輪カップ 盾・賞状 2～6 トロフィー 賞状・Tシャツ 7～10賞状	一般3,000 高校2,000 中学1,000 小学 300	利根川堤防新 設
第18回	H.14.4.7	2,325	88	492	ハーフ 10k 5k 3k 1k ジョグ		タオル	1 楯輪カップ 盾・賞状 2～6 トロフィー 賞状・Tシャツ 7～10賞状	一般3,000 高校2,000 中学1,000 小学 300	
第19回	H15.4.6	1,926	89	494	ハーフ 10k 5k 3k 1.3k ジョグ	山田敬蔵様	タオル ナップザック	1 楯輪カップ 盾・賞状 2～10 トロフィー 賞状・タオル	一般3,000 高校2,000 中学1,000 小学 300	

行田市鉄剣マラソン大会の沿革

回数	開催日	参加人数	実行委員数	役員総数	部門	ゲスト	参加賞	入賞賞品	参加料	備考
第20回	H16.4.4	2,472	88	509	ハーフ 10k 5k 3k 1.3k ジョグ	有森裕子様	タオル ナップザック	1 遁輪カップ 盾・賞状 2～10 トロフィー 賞状・タオル ストラップ"	一般3,000 高校2,000 中学1,000 小学 300	
第21回	H17.4.3	2,541	90	508	ハーフ 10k 5k 3k 1.3k ジョグ	谷川真理様	タオル ナップザック	1 遁輪カップ 盾 賞状・賞品 2～10 トロフィー 賞状・賞品	一般3,000 高校1,500 中学1,000 小学 300	
第22回	H18.4.2	2,689	87	495	ハーフ 10k 5k 3k 1.3k ジョグ	谷川真理様	タオル ナップザック	1 遁輪カップ 盾 賞状・賞品 2～10 トロフィー 賞状・賞品	一般3,000 高校1,500 中学1,000 小学 300	
第23回	H19.4.1	3,134	87	507	ハーフ 10k 5k 3k 1.3k ジョグ	谷川真理様	タオル ナップザック	1 遁輪カップ 盾 賞状・賞品 2～10 トロフィー 賞状・賞品	一般3,000 高校1,500 中学 500 小学 300	古代蓮の里を 会場にさきた ま古墳群を含 む市内周回コ ース新設
第24回	H20.4.6	4,034	95	575	ハーフ 10k 5k 3.4k 1k ジョグ	谷川真理様	タオル ナップザック	1 遁輪カップ 盾 賞状・賞品 2～10 トロフィー 賞状・賞品	一般3,000 高校1,500 中学 500 小学 400	
第25回	H21.4.5	4,062	99	587	ハーフ 10k 5k 3.4k 1k ジョグ	弘山晴美様	タオル ナップザック	1 遁輪カップ 盾 賞状・賞品 2～10 盾 賞状・賞品	一般3,000 高校1,500 中学 500 小学 400	
第26回	H22.4.4	4,340	100	584	ハーフ 10k 5k 3.4k 1k ジョグ	千葉真子様	タオル ナップザック	1 遁輪カップ 盾 賞状・賞品 2～10 盾 賞状・賞品	一般3,000 高校1,500 中学 500 小学 400	
第27回 (大会 中止)	H23.4.3	4,912	97	601	ハーフ 10k 5k 3.4k 1k ジョグ	千葉真子様 大島めぐみ 様	タオル ナップザック	1 遁輪カップ 盾 賞状・賞品 2～10 盾 賞状・賞品	一般3,000 高校1,500 中学 500 小学 400	東北地方太平 洋沖地震の影 響により中止



回数	開催日	参加人数	実行委員数	役員総数	部門	ゲスト	参加賞	入賞賞品	参加料	備考
第28回	H24.4.1	4,025	101	610	ハーフ 10k 5k 1k ジョグ	大島めぐみ様	タオル ナップザック	1 植輪カップ 盾 賞状・賞品 2～10 盾 賞状・賞品	一般3,000 高校1,500 中学 500 小学 400	
第29回 (大会 中止)	H25.4.7	4,235	97	599	ハーフ 10k 5k 1k ジョグ	大島めぐみ様	タオル ナップザック	1 植輪カップ 盾 賞状・賞品 2～10 盾 賞状・賞品	一般3,000 高校1,500 中学 500 小学 400	悪天候により 中止
第30回	H26.4.6	3,867	98	536	ハーフ 10k 5k 1k ジョグ	増田明美様	タオル ハンドタオル	1 植輪カップ 盾 賞状・賞品 2～10 盾 賞状・賞品	一般3,500 高校1,500 中学 500 小学 400	
第31回	H27.4.5	3,852	96	518	ハーフ 10k 5k 1k ジョグ	増田明美様	タオル ハンドタオル	1 植輪カップ 盾 賞状・賞品 2～5 盾 賞状・賞品	一般3,500 高校1,500 中学 500 小学 500	
第32回	H28.4.3	3,669	97	556	ハーフ 10k 5k 1k ジョグ	増田明美様	タオル ハンドタオル	1 植輪カップ 盾 賞状・賞品 2～5 盾 賞状・賞品	一般3,500 高校1,500 中学 500 小学 500	
第33回	H29.4.2	3,712	99	536	ハーフ 10k 5k 1k ジョグ	増田明美様	タオル ハンドタオル	1 植輪カップ 盾 賞状・賞品 2～5 盾 賞状・賞品	一般3,500 高校1,500 中学 500 小学 500	冠名に陸王杯 と付ける
第34回	H30.4.1	4,544	97	562	ハーフ 10k 5k 1k ジョグ	増田明美様 内村遥様 桂雀々様 宇野けんた ろう様	タオル ハンドタオル	1 植輪カップ 盾 賞状・賞品 2～5 盾 賞状・賞品	一般3,500 高校1,500 中学 500 小学 500	
第35回	H31.4.28	4,520	97	573	ハーフ 10k 5k 1k ジョグ	増田明美様 瀬古利彦様 宇野けんた ろう様	タオル ハンドタオル	1 植輪カップ 盾 賞状・賞品 2～5 盾 賞状・賞品	一般3,500 高校1,500 中学 500 小学 500	

市民体育祭

1. 市民体育祭のおこり

行田市体育協会の主催事業の中でも市民体育祭は、より広い市民の参加があり、市民相互の連帯意識の高揚を図る行田市を代表するスポーツイベントである。

昭和24年に創立した行田市体育協会の、一番初めの主催事業として、昭和25年に「市民体育大会」として開催された。

当時は、現在のような地区体育協会が組織化されていなかったため、行政区を基にした地区単位でチームを作り地区対抗として競技が競われていた。競技は、陸上競技をはじめとする各競技種目により行われ、その種目毎に得点を加算し、総得点で順位を決定していた。

この市民体育大会の開催により、地域での住民相互の親睦や連帯感がより強化され、市民の健康体力づくり大きく貢献した。

2. 市民体育祭の変遷

時代の流れと市民のニーズの変化により、市民体育祭の内容も何度となく見直されてきている。

昭和35年、市内14の行政区がそれぞれ地区体育協会を結成した。これにより、地域でのスポーツ活動が活発になり、スポーツ人口も増加した。競技本位だった体育大会にレクリエーション種目を取り入れ、より多くの市民の参加を呼びかけた。

また、「市民体育大会」の名称も市民に親しまれるよう「市民体育祭」に改められた。総合公園の自由広場が完成してからは、市民体育祭の会場として定着しているが、それまでは長野中学校を会場に開催していた。当時の記録によると、長野中学校の生徒も競技役員補助として、体育祭当日、大会運営に加わっていた。

昭和60年代に入ると、走り高跳びや砲丸投げなどの個人種目がなくなり、それに代わって長縄跳びなどの、団体で行うレクリエーション種目がより多く取り入れられた。平成10年の第48回大会では、すべて団体種目になっている。

平成18年1月1日には南河原村と合併し市内行政区は15地区となり、行田市・南河原村合併記念

として第55回市民体育祭が開催された。

平成28年、第66回大会より65歳以上を対象としたグラウンド・ゴルフがオープン種目として追加された。

直近10年間で、雨による中止が2回あったが、開催された年は全15地区が参加し、盛大に行われた。荒木地区・佐間地区・長野地区・星河地区が常に上位にいるが、他の地区が上位に入れるか今後の活躍が期待される。

3. 今後の課題

市民体育祭は、多くの市民の参加が望まれる。少子高齢化により児童の数が減っている今、参加児童の選出も難しくなっているため年齢層の変化に伴う地区事情も配慮し、時代の流れと市民のニーズに対応した市民体育祭にする必要がある。



(第60回大会：聖火リレー)



(第65回大会：スティックボール転がし)

4. プログラム

第68回市民体育祭競技日程表

※プログラムNo.1集合時間9：10

No.	種 目	区 分	対 象	競技開始時間	組数
1	種目別競技団体廻旋フットボールリレー	オープン	種目別競技団体	9：25	2組
2	男子廻旋フットボールリレー	地区対抗	一般男子	9：35	2組
3	女子廻旋フットボールリレー	地区対抗	一般女子	9：50	2組
4	混合紅白玉入れ	オープン得点種目	一般男女及び小学生	10：05	2組
5	男子三種混合リレー	地区対抗	一般男子	10：20	2組
6	女子三種混合リレー	地区対抗	一般女子	10：40	2組
7	男女混合小学生リレー	オープン得点種目	3～6年生	11：00	3組
8	紅白玉入れ	地区対抗	一般女子	11：15	2組
9	パン食い競争	オープン	自治会役員及び自由参加	11：30	15組
10	グラウンド・ゴルフ	オープン得点種目	高齢者（65歳以上）	11：40	2組
昼 食					
11	種目別競技団体エキジビション	アトラクション	種目別競技団体		
12	ウルトラクイズ	オープン	自由参加	13：10	
13	長縄跳び	地区対抗	一般男女	13：15	2組
14	男子バレーボール運びリレー	地区対抗	一般男子	13：25	2組
15	女子バレーボール運びリレー	地区対抗	一般女子	13：40	2組
16	綱引き	地区対抗	一般男女	13：55	4組
17	年齢別リレー	地区対抗	一般男女	14：25	2組

5. 過去の上位入賞地区

年度	回	優勝	準優勝	3位
平成21	59	荒木	長野	星河
平成22	60	荒木	長野	佐間
平成23	61	長野	佐間	荒木
平成24	62	佐間・荒木		長野
平成25	63	雨天中止		
平成26	64	佐間・荒木		長野
平成27	65	佐間	荒木	長野
平成28	66	佐間	長野	荒木
平成29	67	雨天中止		
平成30	68	荒木	佐間	星河



(第66回大会：女子三種混合リレー)

第68回市民体育祭要項

- 1 趣 旨 健康で明るく豊かな市民生活を築くため、スポーツ・レクリエーションを広く市民の間に普及し、生涯にわたる市民のスポーツ活動を一層活発化するとともに、健康の保持増進・市民相互の連帯意識の高揚を図る。
- 2 主 催 行田市体育協会
- 3 共 催 行田市・行田市教育委員会
- 4 主 管 第68回市民体育祭実行委員会
- 5 後 援 行田市子ども会育成連絡協議会
- 6 期 日 平成30年10月28日(日)
開会式 8時10分～ 競技開始 9時25分～
- 7 会 場 行田市総合公園自由広場

8 種 目

(1)地区対抗種目

No	種 目	対 象 ・ 人 数
1	男子廻旋フットボールリレー	男子8人〔年齢制限なし〕
2	女子廻旋フットボールリレー	女子8人〔年齢制限なし〕
3	男子三種混合リレー[*]	男子8人〔年齢制限なし〕
4	女子三種混合リレー[*]	女子8人〔年齢制限なし〕
5	男子バレーボール運びリレー[*]	男子8人〔年齢制限なし〕
6	女子バレーボール運びリレー[*]	女子8人〔年齢制限なし〕
7	長 縄 跳 び	男子7人・女子5人〔年齢制限なし〕
8	紅 白 玉 入 れ	女子20人〔年齢制限なし〕
9	綱 引 き	男子20人・女子15人〔年齢制限なし〕
10	年 齢 別 リ レ ー[*]	男子50才以上1人・40才以上2人 30才以上2人・18才以上29才以下1人 女子30才以上1人・18才以上29才以下1人

*：トラック種目



(2)オープン種目

No	種 目	対 象 ・ 人 数
1	種目別競技団体廻旋フットボールリレー	種目別競技団体5人
2	男女混合小学生リレー[*]	3年生～6年生男女各1人 計8人 【得点種目】
3	混合紅白玉入れ	一般男女10人・小学生10人 【得点種目】
4	グラウンド・ゴルフ	高齢者65歳以上 5人 【得点種目】
5	パン食い競走	自治会役員5人・自由参加75人
6	ウルトラクイズ	自由参加

*：トラック種目

9 申し込み

- すべての種目は、地区体育協会会長（種目別競技団体廻旋フットボールリレーについては、種目別競技団体長とする）が取りまとめたうえ、10月10日（水）までに所定の用紙により、教育委員会生涯学習部スポーツ振興課へ申し込むこと。

10 競技規定

(1)参加資格

- 地区対抗種目の出場は、学生・生徒を除いた者とする。
- 年齢区分のある種目について、該当年齢区分より低い年齢区分には出場できる。高い年齢区分には出場できない。（小学生リレーは除く）
- 年齢算出基準は、大会前日の平成30年10月27日（土）の満年齢とする。

(2)順位の決定

- 下記の地区対抗種目は、ブロック別に順位を決定する。
 - ▶廻旋フットボールリレー ▶三種混合リレー ▶バレーボール運びリレー
 - ▶長縄跳び ▶紅白玉入れ ▶綱引き ▶年齢別リレー

(3)得 点

- 地区対抗種目の得点については、以下のとおりとする。

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
得点	15	13	11	9	7	5	3	1

※綱引きについては、4ブロックで実施し、各ブロック1位15点、2位11点、それ以下は7点とする。

※同順位のチームがある場合は、該当する順位の得点をそれぞれ与える。

※オープン種目のうち「男女混合小学生リレー」、「混合紅白玉入れ」、「グラウンド・ゴルフ」は得点種目とし、参加地区に参加点として、7点を与える。

- 総合得点は、地区対抗種目及びオープン種目（得点種目）の得点の合計とし、同点の場合は同順位とする。

(4)失 格

- 競技者（チーム）が次に掲げる事項の1つに該当した場合は、その競技者は失格となる。
 - ▶同一競技者がフライングを2回した場合
 - ▶他の競技者の競技を妨害した場合
 - ▶リレーにおいて、バトンゾーン内でバトンタッチが行われなかった場合
 - ▶出場資格規定に違反して出場した場合
 - ▶招集場所にて出場の確認を受けていない場合

(5)市ゼッケン

- ▶男子・女子廻旋フットボールリレー ▶男子・女子三種混合リレー ▶男女混合小学生リレー ▶男子・女子バレーボール運びリレーの出場者は、必ず地区名とナンバーの入った市ゼッケンをつけなければならない。

(6)地区ゼッケン

- ▶混合紅白玉入れ ▶紅白玉入れ ▶グラウンド・ゴルフ ▶長縄跳び ▶綱引き ▶年齢別リレーの出場者は、必ず地区名を記入したゼッケンを地区で用意し背に付けなければならない。

(7)抗 議

- 競技の結果に対する意義の申し立ては、自己（自チーム）が不利益な判断をされたと思われる場合、または競技中に自己（自チーム）以外の者（チーム）の妨害行為により、直接的に不利益を受けたと思われることに対し当該妨害行為をした者（チーム）へ、ペナルティーを課すことを求める場合に限り。
- 異議申し立てをすることができる者は、地区体育協会会長または当該競技出場者（団体競技の場合は、チームの代表者）に限り。
- 異議の申し立ては、次の競技が開始された後はできないものとする。

(8)スパイクの使用について

- スパイクの使用は、全種目において認めない。

(9)表 彰

- 表彰は、右の表のとおりとし、地区対抗団体種目の優勝～3位のチームには、チーム毎に賞状を授与する。

※オープン種目の男女混合小学生リレーの優勝～3位のチームにも、各選手に賞状を授与する。

総 合 優 勝	優勝旗・賞状・賞品
総 合 準 優 勝	準優勝杯・賞状・賞品
総 合 3 位	賞状・賞品
総 合 4 位 以 下	賞品

(10)その他

- 競技中、応援者は競技場内へ入らないこと。
- 自由広場内へは、車を乗り入れないこと。
- 各地区の控え用テントは、当日に張ること
- 競技者は、競技前に必ず準備運動を行うこと。

第68回市民体育祭開催方針について

1 第68回市民体育祭の開催趣旨について

開催趣旨

健康で明るく豊かな市民生活を築くため、スポーツ・レクリエーションを広く市民の間に普及し、生涯にわたる市民のスポーツ活動を一層活発化するとともに、健康の保持増進・市民相互の連帯意識の高揚を図る。

2 第68回市民体育祭の開催方針について

開催方針

- 誰でも気軽に参加できるように、自由参加種目の工夫を行い、参加者の拡大を図る。
- 市民相互の連帯意識を高めるため、地区対抗競技の充実・改善を図る。

3 第68回市民体育祭の具体的取り組みについて

(1)競技について

- 競技種目及び内容については、第1回実行委員会での議題とし、見直し・改善を行う。

(2)大会運営について

- 自由参加種目の広報活動を行う。
- 閉会式に、より多くの市民が参加できるように、業務の合理化を図り、最終競技終了後、速やかに閉会式を実施する。
- ボランティアを募集する。

※ 自由参加種目

- パン食い競走（自由参加 75人 ・各地区自治会役員5人 合計150人）
- ウルトラクイズ（自由参加 人数制限なし）

“浮き城のまち行田” 駅伝競走大会

1. 沿革

昭和29年から開催されていた行田市駅伝競走大会は、昭和31年12月の周辺8ヶ村合併記念事業と併せて、主催を行田市・行田市教育委員会・行田市体育協会に、主管を行田市陸上競技協会とする組織の見直しを行い、改めて第1回市内一周駅伝大会としてスタートした。

そして、多くの市民が一堂に会し、市民スポーツ活動の振興・普及を図るとともに、健康の保持増進、体力及び競技力の向上を目的とする本大会は、62回を数え、本市の一大スポーツイベントとして定着している。

特に、その間、時代の流れや交通事情の変化に伴い、次のようなコースへと移り変わりながら実施してきている。

- ①本丸グラウンドを発着点とする市内一周コース
- ②富士見工業団地一周コース
- ③旧市民体育館前を発着点とする産業道路折り返しコース
- ④行田市総合公園及び周辺周回コース
- ⑤行田市総合公園内周回コース

2. あゆみ

この10年間は、市内はもとより、市外近隣からの参加を呼びかけたところ、特に、北埼玉地区中体連の駅伝大会コース会場地となったことから、中学生チーム数の増加が目立ってきた。

《第54回大会》

期日：平成22年11月28日（日）

会場：行田市総合公園及び周辺周回コース

種目：3,090mコース

（1人3,090mの5区間継走）

一般の部【男子】・高校の部【男子・女子】

中学の部【男子・女子】

1,150mコース

（1人1,150mの5区間継走）

地区体協の部・一般の部【男子・女子】・

小学生の部【男子・女子】

参加チーム：108チーム

《第55回大会》

期日：平成23年11月27日（日）

会場：行田市総合公園及び周辺周回コース

種目：3,090mコース

（1人3,090mの5区間継走）

一般の部【男子】・高校の部【男子・女子】

中学の部【男子・女子】

1,150mコース

（1人1,150mの5区間継走）

地区体協の部・一般の部【男子・女子】・

小学生の部【男子・女子】

参加チーム：90チーム

《第56回大会》

期日：平成24年11月25日（日）

会場：行田市総合公園及び周辺周回コース

種目：3,090mコース

（1人3,090mの5区間継走）

一般の部【男子】・高校の部【男子・女子】

中学の部【男子・女子】

1,150mコース

（1人1,150mの5区間継走）

地区体協の部・一般の部【男子・女子】・

小学生の部【男子・女子】

参加チーム：86チーム

《第57回大会》

期日：平成25年11月24日（日）

会場：行田市総合公園及び周辺周回コース

種目：3,090mコース

（1人3,090mの5区間継走）

一般の部【男子】・高校の部【男子・女子】

中学の部【男子・女子】

1,150mコース

（1人1,150mの5区間継走）

地区体協の部・一般の部【男子・女子】・

小学生の部【男子・女子】

参加チーム：85チーム

《第58回大会》

期日：平成26年12月7日（日）

会場：行田市総合公園内及び周辺周回コース

種目：3,090mコース

(1人3,090mの5区間継走)
一般の部【男子】・高校の部【男子・女子】
中学の部【男子・女子】

1,150mコース

(1人1,150mの5区間継走)
地区体協の部・一般の部【男子・女子】・
小学生の部【男子・女子】

参加チーム：101チーム

《第59回大会》

期日：平成27年12月6日(日)

会場：行田市総合公園内周回コース

種目：2,200mコース

(1人2,200mの5区間継走)
一般の部【男子】・高校の部【男子】・
中学の部【男子】

1,150mコース

(1人1,150mの5区間継走)
地区体協の部・一般の部【男子・女子】
高校の部【女子】・中学の部【女子】・
小学生の部【男子・女子】

参加チーム：96チーム

《第60回大会》

期日：平成28年12月4日(日)

会場：行田市総合公園内及び周辺周回コース

種目：3,090mコース

(1人3,090mの5区間継走)
一般の部【男子】・高校の部【男子】・
中学の部【男子】

1,150mコース

(1人1,150mの5区間継走)
地区体協の部・一般の部【男子・女子】
高校の部【女子】・中学の部【女子】
小学生の部【男子・女子】

参加チーム：115チーム

《第61回大会》

期日：平成29年12月3日(日)

会場：行田市総合公園内周回コース

種目：3,000mコース

(1人3,000mの5区間継走)
一般の部【男子】・高校の部【男子】・
中学の部【男子】

1,150mコース

(1人1,150mの5区間継走)
地区体協の部・一般の部【男子・女子】

高校の部【女子】・中学の部【女子】・
小学生の部【男子・女子】

参加チーム：136チーム

《第62回大会》

期日：平成30年12月2日(日)

会場：行田市総合公園内周回コース

種目：3,000mコース

(1人3,000mの5区間継走)

一般の部【男子】・高校の部【男子】・
中学生の部【男子】

1,150mコース

(1人1,150mの5区間継走)

地区体協の部・一般の部【男子・女子】
高校の部【女子】・中学の部【女子】・
小学生の部【男子・女子】

参加チーム：165チーム

3. 今後の課題

駅伝競走大会は、競技力を重視したスポーツとして生まれ、ここ数年来100チームを超える申込がある。時代の流れとともに、実施時期やより安全面に配慮したコースの一部見直し等が課題となっている。

今後は、個人の能力や体力を生かしながら、市民が気軽に参加できるような内容の充実を図るとともに、広く市民スポーツ・ニーズを踏まえた行田市駅伝競走大会の推進に努めてまいりたい。



(写真：第62回大会)



行田市体育協会加盟団体のあゆみ

地区体育協会

忍

忍地区体育協会

1. 沿 革

昭和24年行田市体育協会の発足後、昭和35年4月1日忍地区体育協会として、行田市体育協会に加盟した。

協会の運営については、地区住民との連携を保持しながら、体力の向上及び親睦を図るために、地区自治会連合会、同体育部長をはじめ関係者のご指導とご協力をいただきながら発足後、58年が経過した。今後も各種事業が円滑に推進され進展も更に遂げられるよう努力したい。

2. 10年間のあゆみ (市体協事業)

市民体育祭の参加、鉄剣マラソン・市駅伝への沿道係に、その他大会で人員要請の都度、対応をしております。

平成28年度に、我が体協がスポーツ大賞をいただきました。市民体育祭では毎年下位の成績でしたが、平成30年(第68回)今年の大会で第5位とすばらしい成績となりました。



市民体育祭 入場行進

(地区活動報告)

(1)地区体育祭

毎年9月に開催している。今年で41回大会を迎えました。7年前より6ブロックに分けての大会です。競技は市民体育祭に準じる種目が中心ですが、地区独自の種目を設け、高齢者・小学生が1日楽しめるよう午前・午後に競技種目を入れて大

会最後まで参加していただけるよう工夫しています。



地区体育祭 開会式 (中央小校庭)

(2)男子ソフトボール

昭和50年度より年2回大会を開催している。市ソフトボール大会へ5チーム登録、実年大会・シニア大会へは、「忍カッターズ」名で地区内、合同のチームで参加している。

(チーム名) (監督)

- | | |
|------------|-------|
| ①矢場ソフトクラブ | 山口 清美 |
| ②北谷ソフト | 岡安 孝 |
| ③城西ソフトクラブ | 金子 栄一 |
| ④城南ソフトクラブ | 塚本 輝一 |
| ⑤内行田ソフトクラブ | 新井 精一 |

(3)婦人バレーボール

地区大会は近年実施していない。チームは諏訪ドリームズ、1チームのため大会等は春・秋の市大会、数地区の大会に参加させていただいている。練習は、中央小、忍中の各体育館を利用している。地区内のチーム復活を望んでいます。

(チーム名) (代表)

諏訪ドリームズ 長谷部 しのぶ

(4)ゲートボール

年2回大会を実施。大会、練習も地元水城公園コートを利用している。毎週練習しているが部員の高齢化が進み悩みとなっている。

(代表)

吉田 竹夫

(5)親睦ゴルフ

昭和56年5月に発足し年2回の大会を開催して
 りましたが、参加者の高齢化、キャデイ付のゴ
 ルフ場の減少、希望組数がとれない等の理由で、
 平成28年11月、13組、52名の参加を得て第70回大
 会にて35年続いたゴルフ大会を閉じました。

(代 表)
 谷口 允良

(6)グラウンドゴルフ

年2回大会を中央小校庭で開催している。
 行田市の大会も盛んで、当地区からも役員として
 貢献している。

(代 表)
 猪野 征一

(7)軽スポーツ教室

スポーツ推進委員が中心となり毎年6月～8月
 の間、7回程の教室を開いている。教室種目は、
 フロアカーリングが主で数年続けている。

会場は中央小体育館、忍・行田公民館のホール
 を利用している。



前忍・行田公民館にて（平成28年2月）

3. 役員について (歴代会長)

- 田口 好二（昭和35年度～昭和40年度）
- 根岸 武一（昭和41年度～昭和42年度）
- 時田 好三（昭和43年度）
- 鈴木 栄（昭和44年度）
- 大村 勇（昭和45年度～昭和46年度）
- 齊藤 準一（昭和47年度～平成19年度）
- 谷口 允良（平成20年度～ ）

(平成30年度)

役職名	氏 名	役職名	氏 名
顧問	齋藤 準一	顧問	栗原 光夫
会長	谷口 允良	副会長	新井 精一
副会長	清水 敏弘	副会長	本城 純
理事	大嶋 伸之	理事	山口 清美
〃	小暮 雅也	〃	中野 悟
〃	石崎 裕司	〃	滝田 俊秋
〃	平川 英昌	〃	渡辺 智子
〃	安国 和男	〃	内川 博
〃	金子 栄一	〃	須永 孝次
〃	松竹 昇	〃	難波 光順
〃	宮竹 帝守	〃	加藤 智数
〃	木村 博	〃	小澤 昌久
〃	諸貫 清	〃	佐藤 公明
〃	江里 勝徳	〃	齊藤 真一
〃	半田 光一	〃	増尾 秀一
〃	島田 晴義		
監事	安藤 均	監事	島野 明夫
事務局	佐藤 光男	事務局	遠藤 利男
〃	小林 久江	〃	鳩貝 好子
スポーツ推進委員	池谷 智久		
〃	吉田 明正		
〃	小林 正樹		



地区体育祭 ボール運びリレーのスタート

4. 今後の課題や展望

ますます高齢化が進む中、だれもが楽しめ、魅
 力あるスポーツを提供できるかが、地区体協に求
 められると思います。それには、市・他地区の体
 育協会より情報を得ながら、再度生涯スポーツの
 指南役となるべく役員一同、更に一層努力したい。

1. 沿 革

支部のあゆみ

行田地区体育協会は、一本町、二本町、八幡町、新町、下町、中央、宮本、エクセル中央地区で行田市駅に近く商店の多い市街地に結成された。

当初は支部活動も統一されず、市民体育祭の参加等の活動でした。

その後地域の連携、活性化などの機運が高まり地区体育協会組織の改編をし市民体育祭の予選会を、兼ねてみる事となりました。又、地区の皆様の熱意と協力により、行田地区ゴルフ大会、地区スポーツ教室の開催、鉄剣マラソン、浮き城のまち行田駅伝競走大会、ウォーキング大会、カーリング等へ参加し活動が、広がりました。現在では、グラウンドゴルフ、スポーツ教室を毎年開催し大勢の会員が参加して頂き活動がひろがり今日にいたっております。



スポーツ教室【グラウンドゴルフ】
6月～9月の日曜日（宮本公園）



2. 活動報告

(1)お楽しみ運動会

昭和53年より、お楽しみ運動会と名称を新たに、市民体育祭の予選会を兼ねて、行田地区の運動会を開催している。（平成30年度で第41回の開催となりました）毎年10月体育の日に中央小学校の校庭をお借りして、開催しておりますが、最近とくに少子高齢化の波を受け参加者の要請に苦慮しているのが現実です。お楽しみ運動会はなんとか維持できていますが、市民体育祭では、各競技の団体種目においては、8人の編成の為参加者が毎回ぎりぎりの状態で四苦八苦しています。（お楽しみ運動会は人数を少なくし、又、勝ち負けにこだわらず）わきあいあい楽しみながら開催しています。

(2)行田地区スポーツ教室

数多くの行田地区会員がスポーツを愛し、理解頂き、健康維持、生活の一部として溶け込み、楽しく自由に参加できるようにと、平成元年よりスポーツ教室を開催しています。過去においては、卓球、テニス等も開催していましたが、現在は、グラウンドゴルフ教室のみの開催となっています。

開催は、毎年10回行っています、又、最終回は競技大会とし大勢の参加があり大盛況です。

(3)行田地区グラウンドゴルフ大会

平成10年より行田地区内の交流、親睦、コミュニケーションを目的にクラブを設立した。練習日は、月4回宮本公園広場にて行い。年1回中央小学校校庭にて大会が開催されている。



第19回行田地区グラウンドゴルフ大会

3. 行田地区体協常任役員

(平成30年現在)

顧問	吉田 豊彦	宮本
会長	秋元 保	中央
副会長	川島 孝文	本町
副会長	河野 哲士	下町
副会長	栃木 錚平	イケル
副会長	長島 寛	宮本
会計	五十幡秀二	新町
監事	横川 福治	新町
事務局	千野 三郎	イケル
理事	木元 康夫	中央
理事	柳 尚道	宮本
理事	石田 勇治	イケル
理事	森 安正	下町
理事	羽鳥 孝典	下町
理事	小池 利昌	一本町
理事	橋本 恭一	二本町
理事	遠藤 隆久	八幡町
理事	田中 由夫	新町
理事	新島 富衛	新町
理事	西潟 弘悦	本町
理事評議員	野本 泉	中央
スポーツ推進委員	堀 賢司	イケル
スポーツ推進委員	森田 聖司	宮本



第68回市民体育祭：10月28日(日)
入場行進、表彰式



4. 行田地区協会規約

第一章 名称及び事務所

第1条 本会は行田地区体育協会と称し、事務所を事務局に置く。

第二章 目的及び事業

第2条 本会は、地区内すべての人の体力、健康の増進を図る事を目的とする。

第3条 本会は、全条の目的を達成するために次の事業を行なう。

- (1) 体育に関する指導、奨励
- (2) 各種体育行事の実施
- (3) レクリエーション振興
- (4) その他、目的達成に必要な事項

第三章 組織

第4条 1.本会は、中央、宮本町、一本町、二本町、新町、八幡町、下町、エクセルの8地区で組織する。

2.本会は、各地区より自治会長と地区1名及び体育推進委員をもって構成する。

第四章 役員

第5条 会長1名、副会長2名、事務局1名、会計1名、監事2名の役員を置く。

第6条 会長は理事会で推薦する。副会長は、理事会の承認を得て会長が指名する。事務局、会計、監事は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。

第7条 1.役員任期は2年とする。但し、再選を妨げない。

2.補欠で選ばれた役員任期は、現任者の残任期間とする。

第8条 本会に顧問を置くことが出来る。顧問は理事会の承認を得て、会長が委嘱する。

第五章 会議

第9条 1.理事会は本会の最高決議機関で年1回以上開催し、次の審議をする。

- (1) 予算及び決算
- (2) 事業計画及び事業報告
- (3) 規約の変更及び本規約に規定した事項
- (4) その他重要事項

2.理事会は、必要に応じて会長が随時招集することが出来る

第10条 理事会の招集、構成、成立、決議は、次の如く行う。

- (1) 理事会の招集は会長が行う。但し、通知は5日前以上とする。
- (2) 議長は会長とし、構成員の過半数の出席で成立する。
- (3) 理事会の議案は、出席者の過半数で決定する。

第六章 会計

第11条 本会の会計年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

第12条 本会の経費は、会費、負担金、寄附金、その他の収入をもってこれにあてる。

第13条 会費は、単位自治会負担金とする。その他に世帯割り負担金は別に定める。

第七章 専門委員会

第14条 本会は事業を施行する為に、各種専門委員会を設置する事が出来る。専門委員会の組織運営は別に定める。

第八章 付記

第15条 本規約施行上必要な細則は、理事会で定める。

第16条 本規約は、昭和53年4月1日から施行する。

第17条 本規約は、昭和59年9月1日より改正施行する。

第18条 本規約は、平成10年5月26日より改正施行する。

1. 沿革

昭和34年に地区体育協会の結成気運が起こり、地元の体育関係者及び学識経験者等で組織をつくり、地区内にて数多くの準備会を重ね、佐間地区体育協会が発足しました。

平成30年に60年の節目を迎え、年間行事もますます多様化していますが、魅力ある体育協会をつくるべく役員一同、大いに努力を重ねています。

平成6年に佐間公民館が、平成10年には行田中学校体育館が新築され、充実した施設の中で佐間地区体育協会は、地域スポーツの振興と住民の体力向上に寄与しています。

2. 10年間のあゆみ

(1)活動報告

年間を通し、地区体育祭や50年続く小中学生スポーツ大会など、各種事業を展開しています。お年寄りから子どもまで楽しめる事業運営を心掛けており、年2回開催しているグラウンドゴルフ大会は、20歳代から90歳代までの幅広い年齢層の方が参加し、毎回盛り上がりを見せています。

また、市体育協会主催の大会等へも積極的に参加しており、市民体育祭においては、この10年で優勝4回（4連覇）、準優勝2回という成績を収めています。

こうした活動が認められ、平成23年度及び27年度にスポーツ大賞を受賞しました。

◎ 年間行事

- 1 行田市鉄剣マラソン大会
- 2 春季佐間地区婦人バレーボール大会
- 3 佐間地区体育協会総会
- 4 春季佐間地区ソフトボール大会
- 5 佐間地区スポーツ教室
- 6 早朝ラジオ体操兼グラウンドゴルフ大会
- 7 佐間地区小中学生スポーツ大会
- 8 秋季佐間地区ソフトボール大会
- 9 佐間地区体育祭
- 10 フロアカーリング佐間大会

- 11 行田市民体育祭
- 12 秋季佐間地区婦人バレーボール大会
- 13 行田市駅伝競走大会
- 14 佐間地区グラウンドゴルフ大会
- 15 佐間地区体育協会新年会



幅広い年齢層が参加するグラウンドゴルフ大会

◎ 行田市民体育祭

- | | |
|-----------|---------|
| 平成21年度 | 6位 |
| 平成22年度 | 3位 |
| 平成23年度 | 準優勝 |
| 平成24～28年度 | 優勝（4連覇） |
| 平成30年度 | 準優勝 |
- （※平成25・29年度は中止）

◎ 佐間地区体育祭

佐間地区住民の健康増進と相互の親睦を図ることを目的として、行田中学校校庭にて毎年9自治会を7ブロックに分け、23競技を行っています。

平成30年10月7日には、第40回記念大会を盛大に開催することができました。世帯数の少ない自治会はすべての競技に参加できませんが、全自治会の参加を得ることができました。

(2)加盟団体

◎ ソフトボール

向町ソフト、緑町グリーンズ、二佐間フェローズ、二佐間イーグルス、オール神明、三間ソフトの6チームが登録されています。

行田市春・秋大会のほか、実年大会及びシニア大会等に出場しています。また、佐間地区大会は運営委員の協力で春と秋の2回実施しています。

◎ 婦人バレーボール

向町、二佐間、神明、三間の4チームが登録さ

れています。

行田市春・秋大会に出場しているほか、佐間地区大会を春と秋の2回実施。他地区体育協会の招待試合に参加することもあります。ここ数年、選手が減少していますが、週1、2回の練習で「チームワークで楽しもう」をモットーに常に上を目指しています。

◎ 女子ソフトボール

平成元年、佐間地区体育協会の中に「チェリーローズ佐間」として結成され、今年で30年目を迎えました。このところ部員数が減少傾向にありますが、県立行田特別支援学校の校庭を利用し、練習に励んでいます。今後もますますソフトボール人口が増えることを願っています。

◎ フロアカーリング

2018年平昌オリンピック女子の活躍によって日本中にブームを起こしたアイスカーリング。誰でも出来るということで、フロアカーリング「ブロッサム」が結成されて5年になりました。

佐間公民館のホールで毎週土曜日に午前と午後に分かれて、60代～80代の男女32名が楽しんで練習しています。年に1回の全国大会（羽生）、そして年に3回の行田市大会に出場しています。結果はそれなりです。私達と一緒にフロアカーリングを楽しみませんか。



フロアカーリング「ブロッサム」

3. 平成30年度佐間地区体育協会役員

- | | | |
|-----|-------|-------|
| 顧問 | 阿久津彰男 | |
| 参与 | 香川 宏行 | |
| 会長 | 竹内 政行 | |
| 副会長 | 新井 通介 | 金子由美江 |
| 理事長 | 近藤 大二 | |

- | | | |
|----------|-------|-------|
| 副理事長 | 小島 利枝 | 松嶋 美穂 |
| | 井達 邦夫 | |
| 会計 | 関口 尚子 | |
| 事務局 | 蓮沼 義典 | |
| 監事 | 竹内 信吉 | 今井 邦子 |
| スポーツ推進委員 | | |
| | 篠崎貴枝子 | 川端 美夏 |
| | 中澤 俊裕 | |

◎ 常任理事

- | | | | |
|-------|------|-------|-------|
| 松原康夫 | 山北宜史 | 江森政至 | 鷺巣早苗 |
| 大塚典子 | 桑原正幸 | 横須賀恵子 | 栗原弘子 |
| 中村淳子 | 山本武司 | 岩田彰弘 | 伊藤充宏 |
| 吉田憲昭 | 島崎裕充 | 安田節子 | 岡部将弘 |
| 田中佑紀 | 萩原 満 | 吉田秀和 | 小林勝美 |
| 川崎秀男 | 平塚一雄 | 池崎康裕 | 木村剛大 |
| 松本沙也香 | 長浜朝陽 | 小林弘幸 | 吉澤亜紀子 |
| 丸山裕美 | | | |

◎ 理事

- | | | | |
|------|------|------|------|
| 荏原純子 | 中村亜矢 | 今井邦子 | 鯨井史子 |
| 平野治夫 | 萩原 満 | 荒井洋一 | |

◎ 歴代会長

- | | | |
|-----|-------|------------|
| 初代 | 小池 四郎 | 昭和34年～37年 |
| 第2代 | 荒井久一郎 | 昭和38年～39年 |
| 第3代 | 岩佐 是光 | 昭和40年～41年 |
| 第4代 | 小幡 良 | 昭和42年～52年 |
| 第5代 | 井桁 儀雄 | 昭和53年～58年 |
| 第6代 | 藤井 俊夫 | 昭和59年～平成5年 |
| 第7代 | 林 實 | 平成6年～13年 |
| 第8代 | 肥留川和久 | 平成14年～15年 |
| 第9代 | 竹内 政行 | 平成16年～現在 |

4. 今後の課題

- 1 体力づくり運動推進の意識啓発
- 2 指導者の育成と指導体制の確立
- 3 地区住民による社会体育活動への参加



1. 沿 革

昭和35年4月に持田地区体育協会が発足してからまもなく60年目を迎えようとしています。現在（平成30年度）の地区内世帯数は、10年前（平成20年度）よりおよそ100世帯程増加し、4630世帯になりました。一方地区の要望を踏まえ、平成25年度より前谷地区体育組織が太井体協へ移籍することとなりました。これにより体協加盟の世帯数は4,350世帯程（平成30年度）になっています。若い夫婦を中心とした世帯が増える一方で、既住民のさらなる高齢化の進展にあわせて、地区住民の健康に対する意識の高まりを感じています。

地区体育協会としても、少子高齢化と健康志向の高まりを踏まえ、体育祭競技の工夫や安全で参加しやすい生涯スポーツの浸透に努め、スポーツ教室を通じて新たなサークル（フロアカーリング）も発足し、健康づくりと地域コミュニティの活性化に貢献してきています。また、平成12年度からは、山歩きを中心とした「自然体験活動」を毎年実施しています。

サークルは、あらたに発足したサークルを含め現在は8のサークルが活動しています。少子高齢化に伴いサークル数は減少してはいますが、子供から大人まで多くの住民が心身の健康と地域コミュニティの展開・拡大に大きな貢献をしてきています。

2. 活動状況

地区体育祭は、平成30年度で42回を数えています。誰もが楽しく参加できることをモットーに総勢1300名余りが毎年10月に西小学校に集い、13地区による対抗戦方式で行っています。少子高齢化を踏まえて競技種目や参加条件、参加人数にも工夫を加えつつ、各地区役員の協力の下に盛大に開催できており、各地区におけるコミュニティの活性化に大いに貢献しています。

生涯スポーツの振興も積極的に推進しています。スポーツ教室は毎年開催し、その中からミニテニス及びソフトバレー、フロアカーリングなど

のサークルが発足し、生涯スポーツの浸透・拡大に貢献しています。他にも、バドミントン、卓球、ヘルスパレー、さらには参加しやすいパドル体操やボディーコンディショニングなども開催し、スポーツに親しむ機会の拡大を図ってきています。

スキー教室もスノーボーを加えて平成30年度（平成31年1月開催）で33回を数えています。平成12年から始めた「自然体験活動」も山歩きや高原歩きを中心に既に19回実施し、平成31年度（には20回目を迎えることとなります。中高年者の参加を中心に、高山植物との出会いや雄大な展望など、自然との対話を楽しんでいます。

市民体育祭にも毎年150名程の選手を派遣しています。近年、成績は上昇傾向にあり、地区住民のまとまりと交流促進が図られています。駅伝大会にも毎年男子1～2チームが参加して、地区対協部門では常に優秀な成績を残し、大会の盛り上げに貢献しています。



※第28回自然体験活動、八方池を歩きました。

<部活動>

① ソフトボール部

現在10チームが所属し、市主催大会の他、独自でも春秋の持田大会及びふれあい大会、マラソンソフトや太井地区との交流戦(梅ヶ香杯、泉杯)を行っています。持田地区チーム高齢化も進み実年、シニアでも単独チームでの参加もできるほどのです。また、若手入部も多く若返りも進んでいます。

② 西小少年野球

少子化が騒がれる中、毎週末厳しい練習と楽しいレクや合宿を織り交ぜながら活動し、平成30年度は行田市少年野球連盟の春、夏、秋の大会の出場や近隣開催の大会出場など年間約15大会に出場し輝かしい戦績を挙げています。又、外部との練習試合など、行田市外との交流も盛んに行っています。

③ 少女ソフトボール部

ここ数年の成績は目覚ましい快進撃を成し遂げてきました。平成27年、28年には関東選抜で好成績を果たし関東代表として全国大会の熊本、翌年の岡山大会まで遠征し出場を果たしました。30年度も県内や関東近隣の大会に数多く出場し運動と勉学を両立させる活動を続けます。

④ 持田グラウンドゴルフ部

2017年に25周年を迎え、生涯スポーツのグラウンドゴルフが益々盛んになり持田クラブの会員は和気あいの練習により技術の向上に励み、県大会、行田市大会、西部地区大会等に参加者が増加している状況で日々充実した、楽しいクラブです。

⑤ スキー部

スキー教室は第1回を尾瀬戸倉で実施して以降、尾瀬岩鞍、一泊で宝台樹、南会津たかつえスキー場、八千穂高原と場所を変えながら積み重ね、現在は丸沼高原スキー場で開催し平成31年度で第33回目を迎えます。この間地域の方々親子の触れ合い場として、またスノーボード愛好者も参加できる会として継続しています。

⑥ ミニテニスサークル

地域に根ざしたサークルを目指し、スポーツを通じた交流の輪を広げる活動を進めています。スポーツ教室を通じて参加者も増えつつあり、毎週水曜日の練習を通じて、健康作りとコミュニケーションを楽しんでいます。

⑦ 軽スポーツサークル

ソフトバレーを主に、毎週木曜日に西小体育館で19時半～21時半までの2時間、男女総勢20名、最近はこのチームも合同で練習をしています。行田市大会（年2回）、近年は持田地区主催の大会も開催し、明るい仲間と健康維持も兼ねて楽しんでいます。

⑧ フロアカーリングクラブ

昨年（平成30年5月）発足した新しいサークルです。フロッカーを置く技術に加え戦術も必要なスポーツです。グリーンアリーナや持田公民館練習（月3回）いています。連盟主催の行田市大会に参戦して、好成績（準優勝）を上げています。

3. 役員（平成20年度～30年度）

現在、理事及び評議員を含め総勢124名の役員が、体育事業及び総会後の懇親会や新年会などの

交流を通じて仲良く明るく元気に活動しています。
＜歴代会長＞

杉本七三夫（18年度～22年度）・大野隆身（23年度～25年度）・横田香（26年度～現在）

＜副会長・理事長・副理事長・会計＞（順不同）
峯章夫、田口英樹、横田香、大野隆身、小林友明、桑山直樹、加賀谷冴子、東みち子、佐原太、古江広美、内田直司、鈴木正夫、小川海治、金山正行、藤澤良昭、小池晶子、石川栄美子、石川美恵子、新井教弘、野寺松子、江原史郎、千代田新治、関谷泰弘、斎藤博美、林真佐子、堀田勇次

＜スポーツ推進委員＞

桑山直樹、田島修、小久保朋子、堀田勇次、阿部久仁弘、林真佐子、村瀬博宣、新井徹



丸沼高原スキー場にてスキースノーボード教室開催

4. 今後の活動

引き続き体育事業を通じて健康増進とコミュニティの充実・発展等、地域活性化に向けて頑張っていきます。地区体育祭は少子高齢化も捉えつつ、子供からお年寄りまで多くの方が「参加して楽しかった」と思えるように、引き続き工夫を重ねていくこととします。

また、自然体験活動やスキー教室も参加しやすくかつ楽しめる活動に努めるとともに、地域内のスポーツ指導者の協力を得て、多様化する住民の期待に応えられる新たな活動やスポーツ教室も展開していきたいと思えます。

5. 70周年を迎えて

健康志向が高まる中、より一層スポーツに親しむ機会を提供して地域住民の期待に応えるとともに、スポーツ活動を通じて誰もが生き生きと元気で明るい街づくりに貢献していきます。

1. 沿革

星河地区体育協会は、昭和35年（1960年）9月各自治会役員と地区の各種団体が中心となり、各自治会役員を体育協会々員として設立されました。草創期は、市民体育祭の参加が中心の事業でしたが昭和40年代後半から昭和50年代前半に婦人バレーボールや壮年ソフトボールのチームが組織され、地区大会が開催されるようになりその後スポーツ教室から発展した地区大会も増えました。更に最大の事業の星河地区体育祭は昭和51年に北小学校との合同体育祭から分離独立して開催され、以降は地区住民を挙げた一大事業となり昭和52年に地区体協陸上部を発足し、主に市民体育祭への徒競走の選手選出（現在は徒競走は年齢別リレーのみ）を行っていました。現在の活動は、元旦マラソン（新設より40年）、市駅伝大会の選手選考を行っています。地区体育祭は昭和60年より総合公園自由広場での実施となり市民体育祭に匹敵する体育祭を継続しています。

その他の事業としてスキー愛好者を中心に昭和56年2月より星河ファミリースキー講習会を開催し、38年間継続し親子三代目まで参加しています。第1回より宿泊スキーであったが現在は日帰りスキーで実施しています。



星河地区体育祭

第11回市民体育祭が初参加でした。団体競技は、地区1位チームが参加していましたが、地区の片寄りが出る為現在は上位3位までの地区を参加させ、多くの地区を出場させることにしました。

2. 活動報告

現在実施している事業の骨格は、昭和50年代に整い現在に至っています。主な事業の第1回大会の開催時期を列挙。

昭和47年3月 星河婦人バレーボール大会
第50回目実施継続

昭和50年8月 星河壮年ソフトボール大会
第88回目実施継続

昭和51年10月 星河地区体育祭
第43回目実施継続

昭和54年1月 星河地区元旦マラソン
第41回目実施継続

昭和56年2月 星河ファミリースキー講習会
第39回目実施継続

昭和59年11月 星河パドミントン大会
第34回目実施継続 クラブにて運営

平成6年7月 星河硬式テニス大会
第26回目実施継続 クラブにて運営

平成20年7月 星河ふれあいハイキング
第11回目実施継続



市民体育祭

・活動状況

地区体育祭は、毎年盛況に開催していますが、ここ数年は参加者の高齢化が目立ち、一部自治会から種目の見直しを要請されました。50歳以上の種目の新設や得点種目をレクリエーション種目へ変更するなど、一部種目の見直しを図ってきました。しかし年々団体競技の参加者が少なく棄権するチームが増えてきました。小学生高学年及び中学生までを参加させ、参加点を加点し、棄権チームを減らす工夫を行い現在に至っています。小学生も春の運動会が終わると物足りないのか、参加者が増えてきています。

今後、小学生、親子、祖父母と孫の皆さんが参加できる種目を模索し、地区全体の活性化を図っていきます。

スポーツ教室は、平成11年以降ソフトバレー、ミニテニス、バドミントンを中心に実施してきましたが、参加者が30～50人と頭打ちの状況が続きました。平成16年度はスポーツ吹矢、フロアカーリングを実施しましたが参加者が20名と減少、平成17年度は太極拳（参加者70名）と増加、健康指向の老若男女の方々に参加されたことにより、平成18年度よりヨガ教室を実施したところ10代～70代までの幅広い年齢層の方々毎回100名を超えて平成28年度まで盛況にて完了しました。平成29年度より骨盤体操を取り入れ、この教室も100人を越えて参加しています。平成30年度も100人超えの大盛況、参加者の要望も強いので、当面継続の方向で実施していきます。

ファミリースキー講習会は、昭和56年2月に第1回が開催して以来、平成18年度まで宿泊を伴う講習会で実施してきました。しかし、趣味の多様化に伴うスキー人口の減少傾向や費用の割高感の影響等で参加者の減少が顕著になりました。盛況時は、大型バス2台、約100名が参加していました。特に平成17年度は40人、平成18年度は33名と50名を割込む状況が続いた為、平成19年度から宿泊を伴う講習会を断念し、日帰り講習会に変更しました。その結果、前年の2.5倍に当たる84名まで参加者が回復し、一定の歯止めを掛けることが出来ましたが、現在は少年サッカーチームの廃部等少子化の波に勝てず、現在は大型バス1台の人員で継続しています。



ファミリースキー講習会

その他、ソフトボール、婦人バレー、テニス、バドミントン等の地区大会は、各クラブが中心になってそれぞれ実施しています。ミニテニス、ソフトバレークラブは市連盟に加入し、各大会に参加しています。

3. 今後について（これからの活動）

少子高齢化、健康への関心の高さ、体力の維持向上等々、私たちを取り巻く社会環境は、大きく変化しています。生涯スポーツを実践する地区体育協会に寄せる期待は高まる事が予想されます。

◎次の世代を担うリーダーの発掘と育成

30～40代の役員を発掘育成し活性化を図る

◎魅力ある地区体育祭の開催

幅広い年齢層の人が参加でき、楽しめる種目への見直しと各自治会の要望や提言を実行する。

◎生涯スポーツを意識したスポーツ教室の開催

老若男女が喜んで参加できる教室の追求

◎その他

現在の各事業をベースとして運営の推進

4. 役員等について

下記の役員で運営していますが、地区主事業の円滑な運営の為、平成20年度より体協のOBの皆さんに協力員を依頼しました。

会長	河野充晴	副会長	森 由美子
副会長	松本健治	理事長	染谷新治
副理事長	柿沼英行	副理事長	巻口久子
副理事長	島崎孝三	副理事長	関根和子
副理事長	小林正枝	常任理事	好田直樹
常任理事	浦辺英樹	常任理事	多田正仁
常任理事	柿沼貴志	常任理事	清田 悟
常任理事	大澤竹生	常任理事	秋葉亜希子
協力員	荻野秀夫	協力員	長谷川光夫
協力員	小高留珠	協力員	村田 昭
協力員	八島捷二	協力員	小室恵美
監事	中込広治	監事	茂木一之



バスハイキング

70周年を向かえての目標

星河地区の皆さんの要望や提言を的確に把握し、星河地区体育協会の事業全般に亘って、星河地区の活性化を図っていく。

1. 沿革

昭和27年に長野地区体育協会が発足して、既に66年の年月が経過した。スポーツによる地域住民の健康とコミュニティを育む活動が確実に受け継がれている。

地区体育祭は、体育協会最大のイベントとして毎年盛大に開催されており、地域コミュニティの醸成に大きな役割を果たしている。近年の状況をみると、若い人材を多く選手起用できたチームが好成績を残している。

市民体育祭では、ベテランと若い選手がうまく融合し上位入賞が定着している。

これらは、地域の皆さんのスポーツに対する意識の高まりの結果であると考えている。

2. 活動状況

地域のスポーツ振興や体力づくり、健康増進を図る目的をもって、壮年ソフト、婦人バレー、ミニテニス、少年野球、バドミントン、ミニバスに助成金を交付し各団体の大会を後援している。

長野地区体育協会主催では、地区体育祭の他、各種スポーツ教室、バスハイキング、ゲートボール大会、グラウンドゴルフ大会を実施している。

長野公民館及び桜ヶ丘公民館の文化祭では、来場者の体力測定や写真展示を行っている。

○地区体育祭

体育協会の最も重要なイベントである。地域住民のコミュニティ維持、発展に欠かせないものと考えている。雨天の場合は中止となるが、その翌年は予備日を設けることとしている。

市民体育祭で好成績が納められるよう市民体育祭に準じた競技種目を主に行っているが、高齢者向けの競技も増加させている。

○スポーツ教室

主に初心者向けに各種スポーツ教室を1年に2種目、各5回開催している。フロアカーリング教室を実施した際は新団体の結成に至っている。

○バスハイキング

日光戦場ヶ原や長野霧ヶ峰高原、草津元白根山、

榛名外輪山、上野村などに出掛けた。山歩きの達成感を味わった後は温泉に立ち寄り、疲れた体を癒している。

○ゲートボール大会

競技者の減少により長野地区以外からもチームを招き大会を開催している。今後もできる限り長く続けていきたい。

○グラウンドゴルフ大会

総合公園西の原を会場に自治会対抗戦と個人戦を行っている。参加選手は楽しみながらも熱心に日頃磨いた腕前を競っている。

○各競技団体

(1) 壮年ソフトボール



現在11チームが登録されている。春と秋、年2回大会を開催しており、平成30年の秋で85回目の大会となる伝統のある活動組織である。市大会でも優勝する強豪チームも所属する一方、人員不足で苦しんでいるチームもある。最近は出場資格を拡大し、学生や市外在住者へも門戸を広げている。体力向上や地域との親睦を図りたい方の参加を期待している。

(2) 婦人バレーボール



長野地区婦人バレーは、現在6チーム57名の登録で、長野地区大会と他地区からの招待チーム

を含めた親善大会とで年2回の大会を開催している。幅広い年齢層の中、和気あいあいとバレーボールを楽しんでいる。

(3)ミニテニス



生涯スポーツと云われる通り平均年齢67才、毎週土曜日夜7：30～9：30桜ヶ丘小学校体育館にて、体力の維持増進を目指し和気あいあいと楽しく練習を行っている。共に練習に参加できる方はいつでも歓迎する。

(4)少年野球



富士見少年野球及び東フェニックスは、活動において子供達が明るく・楽しく・元気に、健全な心と体を育むことができる環境づくりを大きな目標とし、毎週末の練習等を始め各種の取り組みを行っている。

(5)バドミントン



当少年団は昭和60年に発足、東小学校体育館を拠点に活動、毎週日曜日が定期練習日となっている。各種大会への参加の他にハイキング、川遊びなどバドミントン以外の活動も行っている。

(6)ミニバス



長野ミニバス（女子）、桜ヶ丘ミニバス（男女）のチームで活動している。年間を通じて沢山の公式戦に出場し、ミニバスを通して子供たちの体力作りからチームワークの大切さを意識して日々の練習に励んでいる。

3. 役員・今後の課題



8年 長野地区体育協会 常任理事

時代の流れと共に体育協会に求められるものも変化してきている。今後は、少子高齢化やスポーツ志向の多様化を考慮し、新たな時代に合わせたスポーツ振興を模索していく必要があると考えている。

1. 沿革

昭和35年4月、初代会長に松村清氏が就任し、輝かしい事業功績を残した。

昭和56年4月より野口国雄氏が就任し、若返りを計り事業執行にあたる。

平成7年4月より川島正義氏が会長に就任し、指導者の育成に重点を置いて活動にあたる。

平成15年4月より川島春夫氏が会長に就任。誰もが参加できる体協づくりを念頭に置き、事業の充実を図る。平成18年には市民体育祭10連覇という輝かしい記録を打ち立てた。



現在は、平成29年4月より大木浩二氏が会長に就任し、子どもからお年寄りまで参加できる事業を推進している。平成30年度の行田市民体育祭では、4年ぶりに総合優勝を果たした。

2. 活動報告

地区体協の活動は、体協主催のスポーツ行事の他、納涼祭やクリスマス会、除草作業などの公民館事業にも積極的に参加している。また、荒木小学校及び見沼中学校の学校応援団となり、地域ぐるみの教育活動の推進にも取り組んでいる。

(1)地区体育祭

地区体協最大の行事で、自治会連合会や各種スポーツ団体と協力し、盛大に開催されている。市民体育祭を見据え、同様の種目を行っている。また、荒木地区独自の競技、更には親子で参加する

オープン種目があり、地区住民一同が会する体育祭ではなかろうか。真剣さの中にも笑いが有り、子どもからお年寄りまで親睦を図っている。

(2)スポーツ教室

毎年5月下旬から7月下旬までの期間で、計10回スポーツ教室を実施し、延べ150人が参加し、バドミントンや卓球をとおしてさわやかな汗を流している。その他にも、ヘルスパレーボールなどの新たなスポーツにも積極的に取り組んでいる。また、過去にはドッジビー大会を開催し、中学生チームが参加した。みんなが楽しめて、スポーツをとおして親睦を深められるように今後も取り組んでいく。



スポーツ教室

(3)ウォーキング教室

従来、ウォーキング教室となると、山へのコースが多く参加者の層が絞られてしまう傾向にあった。そこで、時代のニーズに合った健康志向、将来に目を向け老若男女問わず、誰もが楽しめるコースを選定するようにした。その甲斐あって、子どもからお年寄りまで毎年約100名の参加者が集い、盛大に開催している。実施場所は、明治神宮や豊洲などの都内の他、最近では鎌倉や横浜などでも実施している。

(4)自治会親善ソフトボール大会

30年前から行われている大会である。従来7月に実施していたが、熱中症を危惧し実施時期を変更した。年齢制限を設けず、様々な方の参加を集っている。社会人はもとより、在勤者も参加でき、和気あいあいボールを追いかける楽しい大会である。最近では、女性の参加者も見られるようになった。

(5)自治会親善バレーボール大会

毎年11月に行われている。バレーボールチームに所属している方だけでなく、バレーボールの経験があまりない方も多数参加している。近年は、見沼中学校の女子バレーボール部も参加し、親睦を深めている。

(6)行田市駅伝競走大会

歴史ある行田市駅伝大会。荒木地区体育協会チームは、昭和33年から50年以上連続で出場している。過去には、16年連続優勝とう輝かしい成績を収めた。近年は、優勝を目指すとともに複数のチームで参加している。

(7)元旦マラソン大会

荒木地区恒例の元旦マラソン大会。開催の歴史は40年以上を迎え、荒木地区体協の中でも歴史ある行事の一つとなっている。午前6時30分にスタートし、利根大堰までを往復する約5kmのコースで実施している。歩くのもよし、走るのもよしということで、子どもからお年寄りまで参加している。

利根大堰の土手の上でご来光を祈念し、それぞれが1年の願いを込めてゴールを目指す。ゴール後は、甘酒やおしるこ、みかん等がふるまわれる。また、お楽しみ抽選会があり、これを楽しみしている参加者も多い。早朝にもかかわらず、約300名の参加者が集い、盛大に開催される大会である。今後も多くの方が参加できるような大会を目指して取り組んでいきたい。



3. 登録チーム

ソフトボールチーム	バレーボールチーム
① 荒木 タイシーズ	① 荒木A
② 荒木ツインズ	② 荒木C
③ 荒木ジャックス	③ 小見
④ 荒木ダイヤモンドズ	
⑤ チャンプ荒木	
⑥ ロック荒木	
⑦ ホワイトリバーズ	

4. 荒木地区体育協会役員

顧問	川島正義	川島春夫	石川喜一
	森田敏一		
会長	大木浩二		
副会長	竹内雄一	小松裕幸	
理事長	鴨田展明		
副理事長	島田謙二	井筒 誠	茂手木伸幸
	秋山堯史	田口和宏	野口智史
	大木一也	蛭間康文	樹森春美
	宮田めぐみ		
会計	市川幸男	川久保仁多朗	
監事	村社 弘	大沢正和	
事務局	北岡勝也	杉山明弘	



5. 今後の課題や展望

スポーツを通じて健康で豊かな生活を送るためには、一人一人がスポーツ活動の必要性を認識し、健康な日常生活を営むことができるよう、暮らしにスポーツのあるまちづくりを進めていく必要がある。そこで、荒木地区体協ではスポーツ、体力づくりに関心を持ち、気軽に参加できるような取り組みを引き続き行っていく。また、子どもや高齢者など年齢層、ライフステージに応じたスポーツ環境づくりにも取り組んでいきたい。

須加

須加地区体育協会

1. 沿革

須加地区は行田市の北部に位置し、西に北河原地区、南に荒木地区、利根川に隣接する田園地帯です。

昭和35年に須加地区体育協会の前身である行田市須加支部が結成、初代会長に高橋林三氏が就任し、同年行田市体育協会に加盟した。

発足時は須加小学校との共催で秋季運動会が開催された。

昭和42年、第2代会長に永沼運造氏が就任し、その母体が確立された。

昭和45年、第3代会長に大澤武雄氏が就任し、壮年ソフトボール、婦人バレーボールが設立され、活発な活動が繰り広げられるようになる。

昭和61年、第4代会長に筑脇金次氏が就任、グラウンドゴルフ、ゲートボールなど年齢層を問わないスポーツの普及努めた。

平成4年、第5代会長に長島良之介氏が就任し、ソフトバレーボール、バドミントン、マラソン&ウォーキングなど種目が多様となる。

平成15年、第6代会長に永沼二三夫氏が就任し、事業を引き継ぎ、若年層の参加促進のため執行部の若返りを図った。

平成20年、第7代会長に長谷川浩一氏が就任し、前会長の事業運営を継承し、更なる若返りを図ると共に、各行事に多くの住民の参加を得られるよう工夫を凝らしながら事業を進めた。

平成24年、第8代会長に園部秀夫氏が就任し、各事業行事、年齢を問わない幅広い参加者の増加を図り、体に優しい生涯スポーツ、フロアカーリングを取り入れ、普及活動を実施、部が立ち上がり、活動も盛んに行われている。

平成30年、第9代会長に飯塚圭一氏が就任し事業を引き継ぎ活動している。

2. 活動状況

(1) 体育祭

地区体育祭は、市民体育祭種目に合わせて競技種目を組み入れ地区独自の種目と交え、未就学児

から高齢者まで参加できる種目を増やし、常に400人以上の参加があり須加地区体育協会のメイン行事となっている。

市民体育祭では、市体協の中でも小規模地区ながら、まとまりの良さで毎年好成績を収め特に女子の活躍が際立っているところだ



(2) 軽スポーツ教室

軽スポーツ教室を通じて地域での仲間づくりや個々の体力づくりを目的として6月から9月にかけて実施しています。

近年では、卓球、スポーツ吹矢、カーレットなど様々な種目を行って特にフロアカーリングでは好評を得て、部も立ちあがり盛んになっている。



(3) ソフトボール大会

体協の中でも根強い人気を得ている行事で地区のソフトボール部員を中心に毎年1回開催している。自治会単位のチーム構成で選手以外にも多くの応援者が参加し和気あいあいと楽しんでいます。以前は利根川河川敷で行われていた大会も諸事情で使用できなくなり近年では見沼中学校の校庭を借用して行われています。

(4)ハイキング

バスハイクとして15年が経過し地区体協の恒例行事となり、老若男女の参加で好評である。

毎年7月下旬に開催、温泉付きバスハイクは新たなコースを模索するのに実行委員も現地調査に余念がない。



(5)ウォーキング大会

マラソン・駅伝大会として開催された大会も参加者のニーズに合わせ平成26年からウォーキング大会として名前を変え、須加地区の名所旧跡を訪ね、近年では近隣の道の駅などのコースを選定、老若男女が参加できる大会となっている。



(6)ソフトバレーボール大会

ソフトバレーボール部、婦人バレーボール部員を中心に2月に開催。

ボールが柔らかいため、高齢者でも十分楽しめるスポーツで、大会は自治会単位の組み合わせで、珍プレー好プレーの続出で人気のある大会となっている。



3. 70周年を迎えて今後の活動方針

市体育協会が70周年という節目を迎えられたが須加地区体育協会も58年が経過し市体育協会指導のもと地区体育振興に努めてきた。

各行事開催は、体協スタッフが決定、実行委員が計画しスポーツ推進委員の指導のもと実施している。

役員や参加者の高齢化が進む中、若年層の参加が少なく課題となっている。

身体に優しい生涯スポーツ活動を充実させ、いつまでもだれもがスポーツに親しめる環境づくりの実現に努め、各種団体との共想によって須加地区組織の強化を図って行きたい。

(1)須加地区体育協会歴代会長

第1代	昭和35年	高橋 林三
第2代	昭和42年	永沼 運造
第3代	昭和45年	大澤 武雄
第4代	昭和61年	筑脇 金次
第5代	平成 4年	長島良之助
第6代	平成15年	永沼二三夫
第7代	平成20年	長谷川浩一
第8代	平成24年	園部 秀夫
第9代	平成30年	飯塚 圭一

(2)須加地区体育協会役員（平成30年）

会 長	飯塚 圭一
副会長	森 一豊
◇	成田 幸夫
◇	栗原貴美子
◇	青木 信幸
スポーツ推進委員	須永 昌幸
◇	青木 文男

1. 沿 革

北河原地区体育協会は、同地区における体育運動を普及発展させ、健康の増進と併せて会員相互の親睦を図る事を目的として、昭和35年に結成され、同時に市体育協会にも加盟し現在に至っている。

地区体協の構成は、1支部（上・久保・里前）2支部（天袋・立野・新田）3支部（酒巻上・酒巻下）の3つの支部、8自治会により構成されている。御多分に漏れず、ここ北河原地区も少子高齢化の荒波が押し寄せ、若者の都市部への流出とも相まって人口が減少するなか、地区体協としての対応・活動をどのように推進すべきであるか考えている。

現在専門部として、ソフトボール・グラウンドゴルフ・あじさいバレーボール・3B体操が活動を行なっているが、各部とも高齢化が進み部員数の減少にも頭を悩ませての活動が続いている。

また新たな活動として平成26年から、見沼中学校区の資源回収活動の停止に伴い、年1回北河原地区の資源回収を地区体協が引き継ぎ、得られた収入は雑収入として計上され、各活動費の補助や備品の購入に充てられている。

地区の一大イベントとして実施してきた地区体育祭も平成9年より学校・PTA・地区体協の合同による「北斗ふれあい運動会」の名称となり、当日は児童達の元気な声援のなか、お年寄りから幼児までの地区をあげての大運動会となり、大変意義のある合同開催となっている。

小さな地区ではあるが市民体育祭、駅伝競走大会などの市体育行事にも積極的に参加し良い成績を上げていると思う。

2. 活動報告

(1)地区体育祭（北斗ふれあい運動会）

小学校と地区体協との合同開催となり、今年で22回を数えるまでになった。小学校・PTA・地区体協での合同会議を行い、スムーズな大会運営が行われ、すっかり小学校にも地区体協にも定着

した行事となっている。



北斗ふれあい運動会

(2)ソフトボール大会

昭和51年に始まったソフトボール大会、地区体協行事の中で最も歴史のある大会である。一番多い時は7チームで大会が開催されていたが現在では3チームとなり、活動においても低調となってきたのが実態である。残念ながら今年度は雨天のため中止となってしまった。

(3)グラウンドゴルフ大会

生涯スポーツとして取り入れられ、60才以上の人達を中心に活動し現在に至っている。小学校の児童とのゴルフコンペは部員達の生き甲斐になっているそうです。

(4)レクリエーション大会

マス釣り大会・地引網（茨城県）などを実施してきたレクリエーション大会、ここ十年位は千葉県木更津周辺での潮干狩りが定着し、ゴールデンウィークには地域住民、特に親子連れの参加者で大盛況である。



潮干狩り（千葉県牛込海岸）

(5)自然体験活動

地区体協行事において、自然に親しみふれあい

ハイキングを楽しみながら地区住民の健康維持・生涯スポーツ・レクリエーションの振興を目的として長年にわたり年2回（春・秋）実施している。

今年度は春に「新緑の碓氷峠アプトの道」秋は「紅葉の高尾山」にてハイキングを実施した。体力に自信のない人にも参加してもらえるようにトロッコ列車やケーブルカーの使用ができるようなコースを企画している。

今後も安全面を最優先に考えて、より多くの人達に参加してもらえるように魅力ある自然体験を提案していきたい。



高尾山ハイキング

(6)軽スポーツデー・地区健康ウォーク

日頃の運動不足の解消を目的として、地域の史跡旧跡などを巡るウォーキングやグラウンドゴルフ・フロアカーリング・ターゲットバードゴルフなどで汗を流している。汗を流した後みんなでお食べる「カレーライス」「煮込みうどん」がとても好評です。

(7)資源回収

今年で5回目となる資源回収、体協役員を中心に専門部・地域住民の方々の協力のもと今年も滞りなく実施することができました。



体協役員などによる資源回収

(8)地区親子教室（スキー教室）

毎年恒例のスキー教室、今年度は尾瀬岩鞍スキー場での開催を予定しています。数多くの皆様の参加をお待ちしているところです。

3. 役員等について

(1)歴代会長

初代 荻野 種雄	7代 大山 幸治
2代 栗原 利夫	8代 森田 庄次
3代 吉岡 利伯	9代 吉田 克己
4代 吉田 房明	10代 上坂 勝次
5代 鯨井 通蔵	11代 長谷川 勲
6代 長谷川 注	12代 手嶋 伸
	13代 大塚 高雄

(2)本年度役員

会 長	大塚 高雄
副 会 長	橋本 広朗
	木元 正幸
	大山 芳夫
市スポーツ推進委員	松田 芳明
	青木 仁
地区指導員	森田 昌彦・将田 昌代
	埜中 秀一・亀井 理恵
	野口 晴恒・野口 晃子
事務局	松田 芳明

(3)専門部

ソフトボール	代表者 栗原 智広
グラウンドゴルフ	小暮 福三
あじさいバレーボール	生方 弘美
3B体操	高澤美枝子

4. 今後の課題や展望

年齢や性別を問わずより多くの地域住民の方々が関心・適正等に応じてスポーツに参画することのできる行事を企画・提案することが重要ではないかと考えている。

少子高齢化、人口減少の進む中でもその時時でのニーズをうまく取り込み、魅力ある行事の提案が重要だと思う。体協の活動が盛んであれば、地域活動への住民参加も活発になり地域の「活性化・支え合い・絆」づくりの一助になるのではないのでしょうか。

1. 沿革

埼玉地区体育協会は、昭和50年に組織され、生涯スポーツの中で「地区住民の誰もが気軽に参加し、誰もが楽しめる体育事業の展開」をモットーに運営を行って参りました。各地区・各団体から選出された理事を主体に、地元自治会連合会と協力し、地区・市民体育祭を最大事業とし、地域の方々の要求を踏まえつつ、四季様々な事業に取り組んでいます。

2. 組織

執行部、地区理事、評議員、各種団体理事により構成されています。

3. 役員(平成30年現在)

顧問 武笠 勇 柴崎登美夫 小山喜右
長澤誠司 卯都木 薫 朝見康夫
太田芳夫 松田千代喜 田島清子

参与 松田重俊 平野昭一 佐藤明彦
樋口成久

会長 鈴木英也

副会長 斎藤伊佐雄 吉野信一

理事長 谷部高史 副理事長 高橋幸弘

幹事

小崎賢一 中谷由紀 田代敏江 坂本裕司
吉原謙一 渡部弘子 飯塚和孝 木村直史
松本大介 早川義彦 大野健一 木村 充
星野恵美子 梶山 卓 森井徹 吉野亮太
柴崎祐次 篠崎資空

事務局・会計 齊藤英幸

監事 金澤茂夫 富田芳弘

地区理事・評議委員

津島 豊 柿沼善行 秋月大輔
諸貫勝義 諸貫美剣 萩原英行
伊藤義浩 赤坂 栄 大野 武
島田茂雄 田代 昇
小山 昭 小山晃一 関口利明 諸貫正人
牛久保 齊 小川博之 清水秀昭 町田貞幸
加相 真 篠原保夫 加相悦雄 武笠克弘
渋澤純一 吉田久二 栗原忠司 関根宏和
吉原謙一 宮本一成 高橋みどり

加藤涼子 佐々木謙次 吉田 進

大嶋周二 佐藤さおり 森下日佐子 猪爪義明

各種団体理事

埼玉少年野球部 瀬山英明

ソフトボール部 吉原謙一

さきたまミニバスケット部 野口未来

さきたま婦人バレー部 池澤智枝

杉原婦人バレー部 渡部弘子

埼玉小PTA 富岡善行

埼玉中PTA 木村靖宏

青少年育成会・体育祭担当 池澤智枝

学校体育施設開放運営委員

大野健一 富岡善行 戸塚郁至

関連役職 スポーツ推進委員

行田市フロアカーリング連盟

公民館生涯学習推進員

埼玉公民館運営委員

4. 活動状況

平成30年度実施の事業は次の通りです。

- 6月 アウトドアスポーツ教室(浅草・隅田川)
- 7月 ソフトバレーボール大会
- 10月 44回埼玉地区民体育祭
- 11月 グラウンド・ゴルフ大会
- 1月 フロアカーリング大会
- 3月 31回チャリティゴルフ大会
- スポーツ教室

5月 ソフトボール 6月 ウォーキング

8月・1月 フロアカーリング 11月 ジョギング

共催・協力事業は次の通りです。

- ・34回鉄剣マラソン
- ・68回行田市民体育祭
- ・62回浮き城のまち行田駅伝競走大会
- ・33回さきたま火祭り・さきたま文化祭芸能発表会

5. 今後の活動方針

老若男女問わず気軽に仲良く健康作りができる環境を整えることを念頭に、地域の方々をご案内できる若い元気な執行部員を育成し、活動を盛り上げて行きたいと思っております。



平成30年7月 ソフトバレーボール大会



○埼玉少年野球部 部員 25名
練習 土・日曜日

・長年にわたり地域の皆様の御協力のもと、25名の球児達が元気に活動しています。伝統ある埼玉少年野球は各大会で優秀な成績を残して来ました。



○杉原婦人バレー部 部員12名 監督 1名
練習 土曜日

・年齢層は幅広く楽しくバレーボールをしています。これから運動を始めたい方、経験者の方、仲間になって頂けませんか！！



○ソフトボール部 部員 有志人数
練習 不定期

・毎年スポーツ教室及び、地区対抗戦を開催している。行田市の大会へも数チーム出場して、優秀な成績を残している。



○さきたまミニバスケットボールクラブ女子
部員26名 練習 月・木／土・日曜日

・主に埼玉小で活動しています。地域の皆様のご支援をいただきながら日々の練習に励んでいます。練習の成果を大会で発揮すべく頑張ります。これからもよろしくお願いします。



○さきたま婦人バレー部 部員 12名
練習 土曜日

・「One for All All for One」をモットーに、みんなでバレーボールを楽しんで活動しています。

主な活動成績 平成20年から30年

- 埼玉少年野球部
レギュラー 平成21、24、25年 夏季大会優勝
ジュニア 平成23年 秋季大会優勝
- ソフトボール部
平成21年 69回大会 第3ブロック準優勝
平成21年 73回大会 第3ブロック優勝
- さきたま婦人バレー部
行田市婦人バレーボール協会親善大会で優勝
- 杉原婦人バレー部
年4～6回程、大会に参加しています。
成績は中の上で頑張っております。
- さきたまミニバスケットボールクラブ 女子
平成27年 新人育成大会 1位
平成30年 県民総合体育大会
北部地区決勝大会 1位

1. 沿革

昭和30年に星宮村の5地区（上池守、下池守、皿尾、中里、小敷田）が行田市に合併以来、地区内における体育運動を健全に普及発展させ、余暇の活用によって健康の増進と併せて会員相互の親睦を図り、明るい社会の建設に寄与することを目的に設立、活動しています。



平成30年11月 星宮地区アウト・スポーツ教室
ウォーキング（長瀬駅周辺）

2. 10年間のあゆみ（活動報告）

(1)地区体協主催

地区体協における主なスポーツ行事は、10月上旬に行われる地区体育祭、10月下旬に行われる市民体育祭への参加、隔年で11月頃に行われるウォーキング、同じく隔年で1月頃に行われるスキー教室のほか、7年前に復活した地区対抗ソフトボール大会や夏から秋にかけて行うスポーツ教室があります。

地区・市民体育祭は、農繁期のため参加者が固定されがちですが、日頃の運動不足の解消と地区親睦が大いに図られ、毎年大変盛り上がっております。地区体育祭では、星宮独自の競技を取り入れるなどマンネリ解消にも努めています。市民体育祭での順位は少しだけ気になりますが、いつか3強を崩すような団体になりたいものです。

ウォーキングやスキー教室は、自然と親しみふれあいながら個々の体力に応じて、健康の保持増

進を目的に行っております。

4年前から隔年で実施しており、ウォーキングでは、筑波山や高尾山などの登山道から上田城周辺や長瀬駅周辺のまち歩きなど、その年ごとに趣向を凝らして行っております。スキー教室は、万座温泉スキー場やかぐらみつまた・田代スキー場などで行っており、参加案内から数日で定員に達する星宮体協で一番の鉄板企画です。参加者それぞれが心地よい疲労感とともに日々の雑念をリセットし、リフレッシュをしています。



平成30年1月 星宮地区アウト・スポーツ教室
スキー教室（かぐらみつまた・田代スキー場）

地区対抗ソフトボール大会は、東日本大震災後の地区親睦と地震の現実を風化させないことを目的に「絆」大会と銘打って復活開催をしました。しばらくは絶対王者が君臨をしておりましたが、新世代の台頭で目が離せない大会になりつつあり、大会後の親睦会も含めて大変盛り上がっております。

スポーツ教室は、手軽に行えるスポーツを通じて健康の保持増進に努めています。過去にはグラウンドゴルフやゴルフの打ちっぱなし、フロアカーリングなどを行っていましたが、最近はパドミントンやスポーツ吹き矢が人気となっており、女性や子供たちを中心にさわやかな汗を流しています。

更に平成30年は、スポーツ行事以外の取り組みとして、星宮地区自治会連合会並びに星宮地区各自治会との共催で、数十年ぶりとなる星宮納涼祭を開催するなど、老若男女が集え楽しめる場の創出及び愛着のもてる地域の醸成にも力を入れています。

当協会への加盟団体は、星宮ソフトボールクラブ（星宮連合チーム絆）、星宮ミニテニスクラブ、星宮城西少年野球の3クラブです。過去には、各

自治会毎に様々なクラブがありましたが、時代の変遷とともに縮小してきました。



平成30年7～8月 星宮地区スポーツ教室
バドミントン 女性や子供に大好評！！

(2)星宮ソフトボールクラブ（星宮連合チーム絆）

地区対抗ソフトボール大会の開催を機に、長年休部状態にあった伝統あるチームが復活をしました。行田市大会をはじめ、長郷大会などに出場し、より豊かな部員相互の親睦を図っております。

部員は各地区の精鋭31名で、毎週土日の朝6時30分から星宮小学校校庭で体力の向上及び技術力の向上に励んでおります。目指すは優勝！部員も大募集しています。

(3)星宮ミニテニスクラブ

ミニテニス、男女18名で毎週金曜日の夜7時30分から2時間、星宮小学校体育館で活動しております。比較的女性が多く、体力や技術力の向上と親睦を図っており、大会での上位入賞を目指し頑張っています。部員も大募集しています。

(4)星宮城西少年野球

星宮小学校の児童のみで活動していましたが、中央小学校区の城西少年野球と合併し、星宮城西少年野球として生まれ変わってから、早10年が過ぎようとしています。その間、近隣チーム消滅による受け皿としての側面もあり、現在、星宮小、中央小、南河原小の児童26名が所属しています。

活動は、毎週土日、星宮小学校での1日練習が基本ですが、練習試合や市外遠征を多く取り入れ、体力の向上や技術力の向上はもとより、心身ともに明朗でたくましい児童の育成に力を入れています。平成30年は、監督やコーチの地道な指導と子

供達のひたむきな取り組みが実を結び、市春大会において、レギュラー、ジュニアともに優勝の快挙を成し遂げました。

小学校児童数が減少していくなか、監督やコーチ、保護者の皆様による地元チームの維持は、大変ありがたい取り組みであり、地区体協としても応援をするとともにバックアップをしています。



星宮城西少年野球(写真は西部地区大会ダブル優勝)
平成30年はレギュラー、ジュニアとも多くの大会で優勝！

3. 役員について（平成30年度）

顧問	根岸 弘吉	顧問	荒井 常雄
〃	棚澤 恵	会長	加藤 誠一
副会長	新島 伸幸	副会長	小池 靖二
〃	秋山 貴英	〃	西村 浩一
理事	多田 博剛	理事	峯川 孝幸
〃	坂本 司	〃	高橋 君江
〃	長澤 友孝	〃	平岩奈方子
〃	福田 明也	〃	竹谷 玲子
〃	桑原 正典	〃	竹ノ谷静枝
〃	福島 正和	〃	加藤宇女美
〃	友松 郁	〃	荒井 清二
〃	根岸 和也	〃	坂本 和成
幹事	新井 恵		
監事	木元 啓	監事	田島千代子
会計	関口 哲也	会計	宮浦 将
事務局	寺田 定弘	事務局	河野 初江

4. 今後の活動方針（目標）

この10年でさらに少子高齢化が色濃く出ている中で、地域スポーツの存在は大変重要であり、地区体協の果たす役割も非常に大きいと言えます。

健康増進に役立ち、誰もが楽しめるスポーツの普及が大切であり、その一助が担える団体となるよう今後も地域密着、相互親睦に努めて活動してまいります。

1. 10年間のあゆみ（平成21年～平成30年）

人口増加傾向にあった太井地区は、平成25年の9,100人をピークに微減傾向に転じた。

少子高齢化が進み、高齢者が3割を占める状態の中、体育活動の在り方に改善や改革が求められている。毎年行われている地区文化祭における体力測定は人気を博しており、多くの老若男女が参加している。公民館活動との連携もキーワードである。

平成25年4月、念願であった泉小学校に隣接する前谷地区の体協組織が持田地区よりの移籍が実現した。これによって、体協組織としては世帯数が初めて4,000軒を超え、人口も約10,000人となった。

平成24年から26年まで3年連続で地区体育祭が雨天で中止となった。多くの住民が集う唯一の機会が失われる不運を嘆く時期であった。

平成26年4月、新たな種目団体として「フロアカーリングクラブ」が発足した。これにより登録種目団体は12団体となった。

平成29年には『教育・文化および体育の向上に貢献された団体』として行田市からの表彰を受けた。

平成30年、台風の影響でこの年も地区体育祭が中止となった。10年間で4回の中止である。

高齢化がますます進む中で、生涯スポーツの領域を広げ、若い世代向け中心の活動からの脱皮も必要となってきた。新たな軽スポーツの導入やレクリエーションゲームなどとの融合を図り、軽い運動と脳トレーニングの分野も体協活動に取り入れる必要も感じられる。

スポーツを行う場と言えば、体育館やグラウンドが中心であるが、公民館や自治会館の施設も有効活用し、コストパフォーマンスを重視して“社会体育の向上と地域内すべての人々の健康増進を図る”という目的を達成していきたい。また、良き伝統は守る一方、マンネリ打破のため、市内外その他団体の活動にも積極的に目を向け、新たな取組みも展開することが今後の課題である。



太井地区体育祭



文化祭における体力測定



新クラブ＝フロアカーリング

2. 平成30年度事業

- 軽スポーツ教室（フロアカーリング）
- 第9回フロアカーリング・スポーツレク大会
- 軽スポーツ教室（ソフトバレーボール）
- 第21回ソフトバレーボール・スポーツレク大会
- 体協ハイキング（西沢渓谷）
- 第42回太井地区体育祭（雨天中止）
- 軽スポーツ教室（ボクシングエクササイズ）
- 軽スポーツ教室（高齢者向けレク・ゲーム）
- 元旦ウオーキング
- 体協ウオーキング

3. 平成30年度共催事業

- 太井・持田・須加婦人バレーボール大会
- 学童スポーツレクリエーション
- 泉杯ソフトボール大会
- 太井地区文化祭（体力測定）
- 泉小少年野球大会

4. 体協ハイキング

- | | | | |
|-------|------|-------|------|
| 平成21年 | 草津白根 | 平成22年 | 草津白根 |
| 平成23年 | 白駒池 | 平成24年 | 奥秩父 |
| 平成25年 | 湯の丸 | 平成26年 | 霧ヶ峰 |
| 平成27年 | 忍野八海 | 平成28年 | 美ヶ原 |
| 平成29年 | 霧降高原 | 平成30年 | 西沢渓谷 |

5. 記録

太井地区体育祭

	優勝	準優勝	第三位
平成21年	深水町	棚田町	西新町
平成22年	深水町	棚田町	西新町
平成23年	深水町	西新町	清水町
平成24年	雨天中止		
平成25年	雨天中止		
平成26年	雨天中止		
平成27年	棚田町	西新町	第三門井
平成28年	第三門井	棚田町	清水町
平成29年	清水町	深水町	第三門井・棚田
平成30年	雨天中止		

市民体育祭

平成21年	9位	平成22年	7位
平成23年	8位	平成24年	11位
平成25年	中止	平成26年	8位
平成27年	9位	平成28年	11位
平成29年	中止	平成30年	6位



体協ハイキング



学童スポーツレク



太井・持田・須加バレーボール大会

6. 種目団体

- 泉小通学区ソフトボール協議会
- 太井地区婦人バレーボール協議会
- 泉小少年野球部
- 行田泉サッカースポーツ少年団
- 泉ドルフィンズ（ミニバス）
- 太井グラウンドゴルフクラブ
- 泉テニス
- 太井ソフトバレーボール部
- 太井卓球クラブ
- 太井吹矢クラブ
- 太井フロアカーリングクラブ
- 太井地区・前谷地区青少年育成会

7. 歴代会長（平成21年～30年）

- | | |
|-----------|-------|
| 平成21年度 | 園田佳代子 |
| 平成22～23年度 | 関 允雄 |
| 平成24～25年度 | 千枝幸雄 |
| 平成26～27年度 | 加藤英雄 |
| 平成28～29年度 | 早野 勉 |
| 平成30年度 | 佐藤範夫 |

1. 沿革

当協会は、昭和35年2月に下忍公民館運営委員会内に発足しました。当初は下忍公民館館長が体育協会会長を兼務する組織でしたが、地域の皆様と地元小学校のご支援、ご協力により活動は年々活発化、兼務からなる組織から専任役員による組織が必要と判断し、昭和50年に独立した組織として新たにスタートをしました。現在20代会長である荻原会長のもと地域の皆様の健康づくりのお役に立てるよう日々活動しております。

以下に下忍地区体育協会を盛り上げてくださった歴代会長をご紹介します。

＜歴代会長＞

初代：関口 宣夫	昭和50年～昭和53年
2代：栗原 正也	昭和54年～昭和57年
3代：茂木 冠二	昭和58年～昭和59年
4代：柴崎三千男	昭和60年～昭和61年
5代：安野 雅章	昭和62年～昭和63年
6代：柴田 隆次	平成元年～平成3年
7代：井上 恵二	平成4年
8代：関口 宣夫	平成5年～平成6年
9代：柴崎 秀也	平成7年～平成8年
10代：松村 隆史	平成9年～平成10年
11代：清水 芳雄	平成11年～平成12年
12代：田畑 常雄	平成13年～平成14年
13代：海老島文男	平成15年～平成16年
14代：清水 高明	平成17年～平成18年
15代：岩崎 賢三	平成19年～平成20年
16代：吉澤 宏	平成21年～平成22年
17代：荒井 稔	平成23年～平成24年
18代：後藤 正幸	平成25年～平成26年
19代：柴田 隆明	平成27年～平成28年
20代：荻原 俊治	平成29年～平成30年

2. 協会の歩み（活動報告）

当協会は三大主催事業として、8月の地区納涼大会、10月の地区体育祭、市民体育祭参加を柱として活動しております。その他の活動としては、スポーツ教室、下忍公民館共催行事などがありま

す。また、行田市主催行事になります4月の鉄剣マラソン、12月の浮き城の町駅伝競走大会にも協力役員として積極的に参加、行田市体育協会の一員として、下忍地区体育協会の歴史と文化を築き上げてきました。

(1)納涼大会（8月開催）

下忍小学校の協力のもと小学校校庭において夕涼みを兼ねて納涼大会を開催しています。下忍小PTA、青年育成会、各自治会、千歳会、長寿会の皆様のご支援、ご協力をいただき、盆踊り、カラオケ、ゲームなど20を超えるプログラムを用意、老若男女問わず楽しめるよう工夫し毎年200名以上の参加をいただいています。特に盆踊りには力を入れており、数回の練習を経て本番を迎えるという気合いの入りようです。



(2)地区体育祭（10月開催）

下忍小学校校庭をお借りし、下忍地区を4支部に分け、種目別1位、また総合優勝を目指して毎年多くの選手が参加して開催しています。



競技することだけを目的とせず、各支部テントを親睦と交流を図る場として活用、顔を初めて合

わせる人でもスポーツを通して仲間意識を一気に高めるいい機会になっています。

(3)市民体育祭

毎年150名を超える選手団を率いて参加しています。各地区体育協会から選出された選手団と1位を目指してがんばってきました。ただ、一桁順位の壁はとても高く、なかなか厳しいものでしたが、一桁に入れた時には最高の盛り上がりで1年を締めくくることができた記憶です。

(4)スポーツ教室

フロアカーリングを始め、ヘルスバレー・ソフトバレーなどを、行田市スポーツ推進委員の協力をいただき、NEWSスポーツを中心に地域の皆様の運動不足解消、健康づくりに貢献できるよう種目を選び、下忍小学校体育館、下忍公民館を会場に多くの方の参加をいただきました。



3. 今後について

当地区でも高齢化が進み、徐々に世代交代が進んできております。ただそんな中でどう年間三大主催事業を含む体協事業に地区の皆様の参加をいただくべきなのかを早急に考えなければいけないと感じています。世代交代ではなく、地区の皆様が年代に関係なく参加できるような行事づくりをしていく必要があると認識しています。開催目的を明確にし、開催時間を早める、競技種目を増やす、競技方法を工夫するなど、より一層の創意工夫をまいります。

行田市体育協会70周年の節目に地区体育協会としても地域住民の健康増進に努め、健康で健全な下忍地区づくりに貢献できるよう進めてまいりたいと思います。

4. 下忍地区体育協会加盟団体

- 佐間下忍少年野球クラブ
- 行田サウスフェニックスサッカースポーツ少年団
- 堤根クラブ (ソフトボール)
- グラウンドゴルフ
- Sea Lion (ソフトバレー)
- 下忍シモンズ (ミニテニス)
- 民舞会

5. 役員等 (役職名・氏名の順で記載)

顧問	関口 宣夫	金井さち子	荻原 重夫
	長谷部 明	柴田 隆明	柴崎 恵美
会長	荻原 俊治		
副会長	田島 秀晃	栗原美智子	比嘉みどり
	高澤 有司		
支部長	栗藤 律子	小林 昇	五十幡光明
	渡辺 守理		
監事	三宅 秀行	鷺見 繁樹	島田有里加
	田口 茂	木村 清治	
常任理事			
	市川貴代美	長谷川博子	大塚 高広
	鈴木 由貴	白根 裕子	酒谷 冠奈
	小河原則子	二戸 美紗	井上 理恵
	萩原小百合	根岸 恭子	谷岡麻衣子
	柴崎 芳夫	本橋紘一郎	吉沢アヤコ
理事	柴原 聡	笠井まつ代	福島 直人
	柴崎 一彦	酒谷 伸輔	鈴木 恵美
	沼尻 弘	風間 正博	鈴木 紀幸
	小林 義治	船橋 章浩	中田 博
	宮腰 英明	松村 隆史	田畑 常雄
	海老島文男	山口 善次	山口 勝充
	福島 廣	清水 良明	川崎 道賢
	大木 光春	岡田 瑞恵	鈴木 千裕
	牧 純子	佐々木友子	金子かん奈
	船橋 栄子	田島 勝之	小河原一郎
	小池 博士	柴田 浩之	清水 俊明
	松本 明子		

〔報告者：柴田 隆明〕

1. 沿革

太田地区体育協会の発足は、昭和32年旧大田村が行田市と合併し、その年から行田市の市民体育祭に参加することになり、地区で緊急に組織化されたことが始まりでした。

このため、当初の活動行事は、市民体育祭に参加することが主な活動で、その後、地区内の小中学校運動会の援助、納涼大会など活動を拡大し、現在は、バスハイク、軽スポーツ教室、健康増進活動（グラウンド・ゴルフ大会）などを開催し、地区内のスポーツの振興と体力向上とともに、親睦と交流を深め、明るい地域づくりを目指して活動しています。

2. あゆみ

太田地区体育協会歴代会長と各運営委員会

(1)太田地区体育協会歴代会長

- 初代会長 田島 孝夫（昭和32年～39年）
- 2代会長 藤間 操（昭和40年～50年）
- 3代会長 江森 茂嘉（昭和51年～54年）
- 4代会長 見ル野勝美（昭和55年～58年）
- 5代会長 渡辺 宏（昭和59年～5年）
- 6代会長 新井 博（平成6年～9年）
- 7代会長 田中 時男（平成10年～13年）
- 8代会長 小川勢津雄（平成14年～17年）
- 9代会長 石川 雅英（平成18年～19年）
- 10代会長 坂本 陽誌（平成20年～25年）
- 11代会長 江川 直一（平成26年）
- 12代会長 小倉 晴美（平成27年～28年）
- 13代会長 平社 正俊（平成29年～）

(2)各運営委員会

【婦人バレーボール運営委員会】

婦人バレーボール運営委員会は、昭和47年度に発足しました。

当初、地区内に4チームありましたが、現在は「六本木」の1チームです。このため、他地区のチームを招待して、年2回太田大会を開催しています。

- ・平成30年度運営委員長 小川奈緒美

【少年野球運営委員会】

各地区で少年野球チームが結成され、これに伴い、昭和49年度に少年野球運営委員会が作られました。運営委員会は、スポーツを通じて基礎体力と精神力を養い、青少年の健全育成を目的として取り組みを進めてきました。

ここ数年の少子化のなか、現在、若小玉少年野球クラブの1チームとなってしまいました。

このため、隣接する川里地区の運営委員会と協力して、年1回、太田・川里交流少年野球大会を開催しています。

大会では、行田、鴻巣の少年野球チームを招待して、子供たちの試合とともに指導者と保護者の親睦と交流を深めています。

- ・平成30年度運営委員長 川田 哲男

【壮年ソフトボール運営委員会】

壮年ソフトボール運営委員会は、健康増進と地区の交流を目的に昭和50年度に発足しました。

現在、チームは、「クリーン小針」、「藤間ソフトクラブ」「藤原クラブ」「真名板クラブ」「若小玉南部」「若小玉六本木」の6チームあります。

行田市の大会のほか、地区大会を年2回開催して親睦と交流を深めています。

- ・平成30年度運営委員長 清水 正則

3. 主な主催行事

(1)地区体育祭

昭和50年から市民体育祭の予選会も兼ね、毎年開催しています。

当初は、100m走や1500m走など、予選会的な色合いが強くありましたが、現在は、ほとんどの種目がレクリエーション的なものとなり、地区の親睦と交流の場としての役割を担っています。

毎年、中学校の校庭に2000人以上の老若男女の地域住民が参加し、スポーツを通じて、連帯と交流を楽しんでいます。

(2)バスハイク

平成19年からはじめ、今年で12回目の開催となりました。

毎年、大型バスで関東近郊のハイキング地へ出かけて、1日ハイキングを楽しみ、参加者の健康増進と親睦を深めています。

(3)軽スポーツ教室

毎年、8～9月の土曜日の夜間を活用して、スポーツ推進委員の指導のもとで、軽スポーツ教室を開催しています。

開催日数は、4～5日で、ここ数年は中学校の体育館を利用して、バドミントンやソフトバレーなどを行っています。

年度によって参加者にばらつきが見られますが、例年、親子で参加し、家族でスポーツを楽しんでいただいています。

スポーツ推進委員 玉木 民雄

スポーツ推進委員 柿沼 大智

(4)健康増進活動グラウンド・ゴルフ大会

昭和58年から地域住民の健康増進活動としてグラウンド・ゴルフ大会を年1回開催しています。

参加者は高齢者がほとんどですが、子どもの参加も自由にして、世代間の交流も図っています。

当初は200名を超える参加者がありましたが、ここ数年は減少傾向となっています。大会当日は体協と自治会女性部でトン汁を作り、参加者のみなさんに喜んでいただいています。

(5)その他

毎年7月に、古代蓮の里で開催される「行田蓮まつり」に太田体協では、自治会女性部とともに蓮もち・蓮茶を作り、来場者につきたてのもちと温かいお茶をふるまっています。

蓮もちは毎年90キロ、約30臼をつきます。

4. その他

一行田市駅伝競走大会10連覇達成ー

平成30年12月2日に開催された第62回“浮き城のまち行田”駅伝競走大会で太田地区体育協会チームが体協の部で見事優勝し、同大会体協の部で、前人未達の10連覇（平成21年～30年）を達成しました。

(写真：平成26年～30年の順)



1. 沿革

平成18年1月1日に行田市と（旧）南河原村との合併により南河原地区体育協会設立となり、行田市体育協会に属し14年目を迎えました。

平成28年10月2日には、第11回地区体育祭を行田市、南河原村合併10周年記念と冠を付け、地区住民全体で盛り上げました。

現在の役員構成は、各自治会より4名(計32名)各種スポーツ団体推薦者、小・中学校PTAからの推薦者、平成28年度からは青年部を新規に立ち上げ、若者の参画も積極的に行っています。

合併後は、行田市市民体育祭、体育協会主催、スポーツ推進協議会主催のスポーツ競技に、南河原地区体育協会として、参加しています。

2. 目的

南河原地区における体育活動を健全に普及発展させ、余暇の活用によって健康の増進と併せて明るい社会の建設に寄与することを目的とする。

3. 部構成・役員構成

- (1)総務部（協会の運営）
- (2)体育祭運営委員会（地区体育祭の計画、実施）
- (3)生涯スポーツ部（スポーツ教室、各種大会の参加）

歴代会長(行田市合併後)

- 初代 関口 勝己
- 二代 谷田部勝信
- 三代 今田 博
- 四代 今村 正次（現会長）

平成30年度役員

- 顧問 今田 博
- 会長 今村 正次
- 副会長 吉沢 義和
- 理事長 江森 正行
- 副理事長 坂本 三夫
- 常任理事 野中 直人 加瀬田 誠
- 〃 吉沢 祐輔 田中 翔

- 常任理事 深町 佳典 東口 美紀
- 〃 野口 啓司 松本 大輔
- 〃 野中 万江 細井 千沙
- 〃 荒井 直美 柏木 守人
- 〃 吉野 顕 島村恵美子
- 〃 中島 慎二
- 理事 今村 晃 磯川 享宏
- 〃 田端 智之 白井 哲也
- 〃 加瀬田智行 加瀬田寿浩
- 〃 中戸須美江 吉野 正道
- 〃 金子 稔 早坂 英之
- 〃 江袋 咲恵 田島 芳和
- 〃 栗原 進 清水 雅澄
- 〃 萩原 弘一 柳瀬オリ工
- 〃 遠藤 実 加藤 孝夫
- 〃 田中 智浩
- 会計 松島 正幸
- 監事 小暮 一浩 橋本 一行

4. 活動状況

4月1日より年度の活動が始まり、常任理事会において、年度の役員、事業計画及び予算を立案し、6月初旬の総会にて承認決定され、年度の本格的な活動が始まります。

活動事業

(1)地区体育祭

平成30年は、第13回として実施される予定でしたが、天候不良のため中止となりました。地区体育祭は毎年9月末に実施される、当協会としては最大の主幹行事であります。開催時には、地区住民が8地区自治会に別れ、それぞれの地区の優勝を目指しがんばります、開会式では、入場行進時に地区の紹介を行います。各地区とも地区の特徴やその時の流行語等を用い、とてもユニークな開会式です。



地区体育祭 開会式

(2)市民体育祭

各自治会より選出された選手、90名程で毎年、南河原地区選手団として、上位入賞目指し参加しています。

(3)生涯スポーツ部

各種スポーツ教室を毎年、企画開催しています。

バスハイキング

日帰りで、各年齢層でもウォーキングが行えるコースを選定し、昼食後は、温泉にて疲れを癒し、日々のストレス解消に役立てたいと思います。



バスハイキング(那須高原)

スポーツ教室

体育協会及びスポーツ推進協議会開催の大会参加に向けてのスポーツ教室やソフトバレー、バドミントン、グラウンドゴルフ等、地域の人に参加しやすい種目や、興味のある種目を毎年企画実施しています。



スポーツ教室 (ドッジビー)

浮城のまち行田 駅伝大会

青年部の協力により、20代の青年で結成し、大会に参加しています。



浮城のまち行田 駅伝大会

5. 今後について (これからの活動)

南河原地区においても、少子・高齢化の波は避けられず、年々役員及び参加者の高齢化が悩みとなってきました。そのことから、若者の参加や意見を取り入れようと、青年部を新規に立ち上げ20代男女の協力により、当協会の世代交代化や次期幹部の育成を取り組んできました。

若者のパワーを借り、南河原地区体育協会は、地区住民のコミュニケーション、相互の連帯意識の高揚を図り、健康の保持増進に役立てれば良いと考え、活動を行っていききたいと思います。



行田市体育協会加盟団体のあゆみ

種目別競技団体

行田市野球連盟

1. 沿革

本市における野球の歴史は古く明治30年代の後半にはプレーが行われ、昭和6年に行田実業団野球クラブ（硬式）結成に始まり、同クラブの都市対抗野球大会への出場は多くの市民を熱狂させるものでした。

戦時中、一時中断されましたが、昭和21年に工場、官公庁による対抗野球（軟式）が始まりました。

そして、昭和24年に本丸球場が完成されたことで本市の野球熱も再び高まり、昭和25年4月に行田市野球連盟とし、12チームで発足し同時に行田市体育協会に加盟いたしました。

その後の連盟の歩みは、市内の野球を愛好する多くの方々の支援と昭和38年に発足した審判部の卓越した審判技術、試合運営により、加盟チーム数も増加し、また、昭和60年には本丸球場が忍城址公園として整備されることにより、近代的な総合公園球場が完成し、平成13年に選手の安全対策の一環としてラバーフェンスの整備、さらに平成18年には待望のスコアボードの電光掲示板が完成し素晴らしい野球場となり、埼玉県野球連盟主催の国民体育大会県予選会を始め、幾つかの上部大会を開催することとなり、本市の野球熱もますます盛んになりました。

現在、少子高齢化の影響等により一時のチーム数より減少はしたものの加盟チームは65チーム（Aクラス10チーム、壮年9チーム、1部18チーム、2部28チーム）を数え、登録人数も1,400名を超え埼玉県下47支部でも有数の連盟と評価されております。

また、平成18年からは市内8中学校による中学校野球選手権大会を開催すると共に、平成21年から多くの市民各層の野球愛好家の皆さんが野球競技に参加できるよう、あらたに40歳以上を対象とした壮年リーグ戦を取り入れ、さらには、平成23年には、野球の底辺の拡大と高校野球を通じ未来を担う青少年の健全な育成を目的とし、市内進修館高校、並びに、近隣の高校の硬式野球部参加に

よる、行田野球フェスティバルを開催し、回を増すごとに多くの市民はもとより高校野球ファンや少年野球球児からも好評を得ております。

当連盟も2020年には創立70周年を迎えますが、これもひとえに、行田市体育協会を始めとする関係各位のご指導ご協力の賜と感謝申し上げますとともに、さらに行田市野球連盟の発展に努力してまいります。



(平成30年度読売杯大会表彰式)

2. 活動状況

◎年間6大会、2講習会他を開催

- ・Aクラスリーグ戦兼国体・福永杯・高松宮賜杯予選会
- ・壮年リーグ戦兼日本スポーツマスターズ大会代表決定戦
- ・行田市長杯争奪軟式野球大会
- ・会長杯・ナガセケンコー旗・毎日杯争奪軟式野球大会兼市民体育大会
- ・読売杯争奪軟式野球大会
- ・中学校軟式野球選手権大会
- ・行田野球フェスティバル
- ・市連盟審判技術講習会
- ・少年野球連盟審判技術講習会

◎埼玉県大会出場記録

H21年第32回福永杯大会	SHOWA
第53回高松宮賜杯大会	プリンス
第64回国民体育大会	SHOWA
スポーツマスターズ大会	行田クラブ
H22年第33回福永杯大会	SHOWA
第54回高松宮賜杯大会	集集倶楽部
第65回国民体育大会	Z戦士
スポーツマスターズ大会	ぽっきーず
H23年第34回福永杯大会	RBC
第55回高松宮賜杯大会	Z戦士

第66回国民体育大会	Z戦士
スポーツマスターズ大会	行田クラブ
H24年第35回福永杯大会	ハネルズ
第56回高松宮賜杯大会	プリンス
第67回国民体育大会	Z戦士
スポーツマスターズ大会	行田クラブ
H25年第36回福永杯大会	テイエステック埼玉
第57回高松宮賜杯大会	埼玉ウインズ
第68回国民体育大会	オールキング
スポーツマスターズ大会	ぼっきーず
H26年第37回福永杯大会	テイエステック埼玉
第58回高松宮賜杯大会	埼玉ウインズ
第69回国民体育大会	テイエステック埼玉
スポーツマスターズ	行田クラブ
H27年第38回福永杯大会	SHOWA
第59回高松宮賜杯大会	テイエステック埼玉
第70回国民体育大会	埼玉ウインズ
スポーツマスターズ大会	ぼっきーず
H28年第39回福永杯大会	SHOWA
第60回高松宮賜杯大会	Z戦士
第71回国民体育大会	埼玉ウインズ
スポーツマスターズ大会	行田クラブ
H29年第40回福永杯大会	SHOWA
第61回高松宮賜杯大会	プリンス
第72回国民体育大会	テイエステック埼玉
スポーツマスターズ大会	行田RBCクラブ
H30年第41回福永杯大会	プリンス
第62回高松宮賜杯大会	テイエステック埼玉
第73回国民体育大会	テイエステック埼玉
スポーツマスターズ大会	プリンスBC



(野球フェスティバル観戦)

3. 今後の課題

連盟の今後の課題として次のことがあげられる。

- (1)審判員を含む役員の高齢化が進んでいる為、若年層の加入促進と審判技術の更なる向上が急務である。
- (2)全国大会に出場できるようなチームづくりを目

指し、チームのレベルアップを図りたい。
 (3)門井球場、富士見球場では試合中のファールボール等で球場近隣の住宅に迷惑をかけている状況の為、ネットフェンスの改良が必要であり市当局に要望をしていきたい。

4. 役員

名誉会長	工藤 正司	
顧問	大澤 邦夫	
会長	東泉 嘉一	
副会長	香川 宏行	
理事長	板谷 幸男	
副理事長	小倉 實	出川 三司
監事	岡部 紀之	河野 恭男
常務理事	高橋 茂明	中川 昌之
	小林 克彦	谷口 章
	大沼 博幸	渡辺喜代志
	遠藤 篤彦	柿沼 秀男
	西川 芳男	松本 安夫
	小池 祥介	物部 義雄
	矢部 茂男	竹井 秀和
	沼田 充弘	月俣 了
	関師 崇	大川 元久
	太田 慎一	木村 匡志
	嶋田 邦彦	長谷川雅敏
	小久保隆通	酒井 剣
総務部		
総務部長	出川 三司	
副々	関師 崇	
(幹事)	矢部 茂男	大沼 博幸
	大川 元久	
事務局長	遠藤 篤彦	
審判部		
審判部長	小倉 實	
副々	高橋 茂男	中川 昌之
	小林 克彦	竹井 秀和
(幹事)	谷口 章	
事務局	沼田 充弘	
審判員	矢部 茂男	中村 圭一
	岡部 芳隆	小池 祥介
	富山 照実	大沼 博幸
	小池 雅司	木村 匡志
	町田 伸之	出井 見司
	太田 慎一	関師 崇
	月俣 了	

行田市バレーボール連盟

1. 平成21年～のあゆみと活動

連盟会長が伊藤健二氏から平成26年に現会長清水一男氏へバトンタッチされ、市内外より連盟活動参加協力を条件に加盟チームの増加を進めてまいりました。平成31年度現在、男子17チーム、女子16チームの計33チームで連盟の活動を行っています。

連盟大会は、総合体育館（グリーンアリーナ）を中心に行われています。

2. 活動状況

連盟の大会は、春季（5月）、夏季（7月）、秋季（9月）、総合（11月）と年4回開催しています。その他、市外の大会にも連盟代表として、派遣しております。

また、行田市内の中学生を対象とした大会を子供達の技術向上を目的として、家庭婦人バレーボール協会と共同開催しております。

平成29年度より総合大会を女子は近隣交流大会として、近隣のチームの皆さんと親交を深めた大会としております。



女子：近隣交流大会 選手宣誓

3. 大会の記録（優勝チーム）

年度（平成）	大会名	男子	女子
21年度	春季	OMEGAクラブ	Mickey's
	夏季	金太郎クラブ	柊 會
	秋季	OMEGAクラブ	夏椿クラブ
	総合	OMEGAクラブ	柊 會
22年度	春季	OMEGAクラブ	夏椿クラブ
	夏季	OMEGAクラブ	柊 會
	秋季	中止	柊 會
	総合	OMEGAクラブ	柊 會
23年度	春季	中止	柊 會
	夏季	OMEGAクラブ	柊 會
	秋季	倉上組	柊 會
	総合	中止	柊 會
24年度	春季	倉上組	柊 會
	夏季	土 竜	柊 會
	秋季	中止	柊 會
	総合	Forza千葉	柊 會
25年度	春季	GODZILLA	柊 會
	夏季	中止	柊 會
	秋季	中止	NEW' S
	総合	GODZILLA	柊 會
26年度	春季	GODZILLA	NEW' S
	夏季	中止	NEW' S
	秋季	中止	柊 會
	総合	中止	NEW' S
27年度	春季	栃GⅢ'S	NEW' S
	夏季	キラクB	NEW' S
	秋季	Nikon	柊 會
	総合	D Sクラブ	NEW' S
28年度	春季	九瀬粋球会	柊 會
	夏季	九瀬粋球会	柊 會
	秋季	Cebollinoクラブ	柊 會
	総合	Cebollinoクラブ	NEW' S
29年度	春季	Cebollinoクラブ	NEW' S

夏季	Cebollinoクラブ	NEW'S
秋季	川越ヴィクトリークラブ	NEW'S
総合	川越ヴィクトリークラブ	緑丘クラブ 我笑好

年度(平成)	大会名	男子	女子
30年度	春季	Cebollinoクラブ	NEW'S
	夏季	Cebollinoクラブ	レインボー
	秋季	Cebollinoクラブ	BNS
	総合	Cebollinoクラブ	BLOW DOWN

※平成29年度 総合大会 女子近隣交流大会は、2ブロックの為、2チームがブロック優勝です。

4. 主催大会及び協賛活動

○平成23年・平成28年 県北地区親善バレーボール大会の主催 開催（グリーンアリーナ）

○毎年夏休み最終土曜日、行田市中学生バレーボール選手権大会の開催

○毎年4月には、A級審判員 鴨下氏を講師に招いて審判講習会の開催



総合大会：女子近隣交流大会



総合大会：男子

5. 連盟登録チーム（平成30年度）

○男子	○女子
GODZILLA	SAKURAクラブ
埼玉喜楽クラブ	ナッツクラブ
九瀬粋球会	NEW'S
SUBARU	Heart Beat
B.N.S	B.N.S
倉上組	Mickey's
館林排友会	F・GYODA
Forza千葉	BLOW DOWN
VYPERS VC	緑丘クラブ
DSクラブ	つくし
川越ヴィクトリークラブ	レインボー
Cebollinoクラブ	エンドレス
Dande Lion	Force
栃GⅢ'S	天明クラブ
にった会	ペガサス
TSTECH	柊會
オメガクラブ	

6. 役員体制

役職名	氏名
会長	清水 一男
顧問	伊藤 健二
常任理事	尾関 好宏
常任理事	橋本 幸司
常任理事	森下 直人
常任理事	福田 幸子
常任理事	額賀 三枝子
常任理事	清水 陽美
監事	多田 幸枝

7. 現状と今後の課題

ここ数年、女子チームの加盟数が、減少しつつあります。来年度以降登録方法を見直して加盟数増を目指していきます。

合わせて引き続き審判講習会を通して、審判技術及び試合のマナーも向上させたいと思います。

今後とも、加盟チームの協力を頂き、連盟の行事、運営を進めていきたいと思っています。

行田市ソフトテニス連盟

1. 沿革

行田市ソフトテニス連盟は、昭和22年6月埼玉県軟式庭球連盟行田支部として、伊藤建男氏を支部長に結成され、昭和24年5月行田市体育協会が発足すると同時に長島良治氏を会長に行田市軟式庭球連盟として加盟しました。

各種企業の進出に伴い、興隆を極めました。高度成長期に入ると、他の各種スポーツ団体が結成され始め、市内のソフトテニス競技人口の減少に見舞われました。しかし、昨今では「ソフトテニス教室」が盛況で参加者が増加傾向にあり、「市長杯大会」も総合公園テニスコートにて盛大に開催されるようになりました。

また、毎年3つの県連盟主催大会を行田連盟が主管して実施する事で、県連盟の重要な事業の一端を担っています。

ソフトテニスが生涯スポーツの一つとして、気軽に参加し、楽しめる環境を作るよう日々前進していきます。



連盟役員

2. 平成30年度役員

役職名	氏名	役職名	氏名
顧問	横須賀 徳三	顧問	北 正三
会長	坂野 一己	理事長	大西 武士
監事	本多 賢二	監事	坂本 美南
事務局	大西 武士	会計	藤本 明博
大会長	間庭 経之	大会副	岩崎 貴土
理事	藤本 明博	理事	小野 淳
理事	藤間 和也	理事	上 裕行
理事	間庭 経之	理事	時田 鉄也

3. 10年間のあゆみ

(1)2010年10月31日に姉妹都市である白河市ソフトテニス協会と交流を開始しました。

交互に訪問を行い、テニスを通して友好関係を構築してきました。2019年には7回目となり行田市にて開催することが決まっています。

この間、2015年には桑名市を交えた3市交流を行田にて開催することができました。

成績は桑名26勝、白河13勝、行田6勝という結果でした。桑名市とは1997年以来の交流でした。市体育協会の協力に感謝いたします。

今後とも交流を続け互いの良いところを取り込み、良きパートナーとして向上していきたいと考えおります。



3市友好都市スポーツ交流会

(2)2013年3月31日に総合公園テニスコートが関係者のご尽力によりリニューアルされ、工藤市長を迎えオープニングセレモニーが開催されました。非常にコンディションの良いコートで、それまで市内中学校のコートをお借りして実施していた「行田市長杯」を新たな総合公園コートにて開催することとなり、「行田ユースカップ大会」も新コートにて男女が同一会場で実施できるようになりました。

また、県連盟主催の大会もこのコートで実施されることになり、毎年県内各地から多くのプレーヤーを行田市に迎えることになりました。これを機会に行田市の知名度と、競技レベルの向上につなげるべく活動をしていきたいと思っております。

(3)国内大会への協力

・2010年9月5日に「第38回全日本社会人選手権大会」がさいたま市で開催され、当連盟からは北氏、大西氏が埼玉県ソフトテニス連盟役員として運営に参加しました。

・2014年9月に「日本マスターズ大会」が熊谷市さくら運動公園テニスコートにて開催され、当

連盟からは北氏が総務副委員長。大西氏が記録報道委員。藤間氏が審判員として運営に参加し、大会の成功に寄与しました。

(4)表彰関係

- 2011年12月に当連盟の大西氏が公益財団法人日本ソフトテニス連盟より支部功労者として表彰されました。また、2013年3月に坂野氏が埼玉県体育協会功労賞を受賞いたしました。
- 2015年には北氏が埼玉県スポーツ指導者協議会より、また、翌2016年には日本体育協会より、スポーツ指導者の永年功労者として表彰されました。

(5)県下クラブリーグ戦

「埼玉県クラブリーグ」は、各部6団体構成で、1部～15部まであり、当連盟からは「行田クラブ」、「行田GTO」の2団体が参加しています。行田クラブは市内の2団体（葵、アドバンテスト）が1チームを作り現在13部。行田GTOは2018年のリーグ戦で5部にて優勝したことにより、2019年は4部での参戦となります。「埼玉県クラブリーグ」は埼玉県ソフトテニス連盟が全国1～2位の会員数を要していることが実感できる大会です。



2018年 5部優勝 行田GTO

(6)市内大会について

市内大会は市長杯を総合公園テニスコートにて開催することになり、それまでの複数会場を運営することで、会場移動時の危険性、コートの違いによる対戦条件の違い等が改善されました。

近年、大会が近隣各地にて開催されることで参加者が分散し集まりにくくなってきております。当連盟の主催大会も例外ではなく、より特徴のある大会を企画していくよう検討していく必要があると思っております。

「行田ユースカップ争奪ソフトテニス大会」は

当初、市内の中学校におけるチャンピオンを決定する大会として開始したが、競技レベルの向上の観点から近隣の中学校を招待する形式に2011年から変更しました。招待する近隣の中学校は競技レベルが高く、市内中学校の競技レベルの向上対策も合わせ、今後の大会の在り方については市内中学校の先生方と相談していきたい。

「ソフトテニス教室」は、例年10日間開催しています。2010年をピークに減少傾向にありましたが、2015年から増加に転じ、2018年は参加者94人、のべ参加者数が551人に達しました。この活況を維持しさらなる底辺の拡大を目指します。

「クラブ親善対抗戦」は、現在、5団体が参加する団体戦となっています。勝敗にこだわりつつもソフトテニスを愛好する者同士の交流を続けております。



2018年クラブ親善対抗戦

4. 連盟運営

2016年をもって市役所クラブが活動を休止する事になり、連盟所属の団体は葵クラブ、行田GTO、アドバンテストの3団体となりました。団体が減少することは残念なことです。残った3団体の結束を固め、活況を呈している「ソフトテニス教室」の参加者から競技者を増やしていくように努力していくことが重要だと考えております。

上部団体からスポーツ・インテグリティの確保についての指導がありました。当連盟もその指針に沿って①アスリートや指導者に対する教育・研修の強化。②アスリートの相談体制の充実、利活用の促進。③問題事案に係る公正・迅速な調査と説明責任の履行。を進めていきます。

5. 行田市ソフトテニス連盟の信条

“真の勇者は、常に常勝にあらず、敗れて立ち上がる闘志にある” (文責 大西武士)

行田市卓球連盟

1. 沿革

昭和35年、行田市教育委員会より卓球連盟設立の要請を受け、同年10月卓球連盟が発足した。

連盟としての第一回大会は、昭和35年11月13日、行田高校（現進修館高校）において、個人戦、ダブルス戦を行い、一般、学生を交えて、約80名の参加があったと当時の記録がある。昭和39年より、春は団体戦、秋は個人戦を行い、工業団地及び市内繊維関係の事業所等が参加し、団体戦は22チームの参加があった。昭和45年頃より個人戦は1部2部に分け、1部は一般、2部は40歳以上の初心者で150名以上の参加を数えるようになった。この頃の大会会場は市内の中学校や高校の体育館を借用し各事業所より卓球台を借り上げ車で運搬し会場作りを行った。

昭和47年待望の市民体育館の完成により、昭和51年頃には個人戦2回、団体戦2回の年回4回の大会を開催し、昭和55年、中学生の技術向上を目的とした、中学生大会も催すこととなった。尚、近隣の市町村との親善を目的とした卓球大会を開催する話が持ち上がり、加須市と行田市が中心となり、昭和50年第一回大会が加須市で開催された。更に、昭和54年には名称も、北埼玉郡市卓球連盟となり、行田市、加須市、羽生市、大里根町、騎西町、北川辺町、川里村（後の川里町）が登録し、持ち回りで大会が開催されるようになった。平成17年に川里町が鴻巣市に編入、平成22年には大里根町、騎西町、北川辺町が加須市と合併し北埼玉郡が消滅、平成30年、長年話題となっていた名称を新元号が施行される次年度から北埼玉卓球連盟と変更になる予定である。

昭和58年日本大学卓球部（大学一部リーグ）と行田市民体育館において、合同合宿強化練習に参加する機会に恵まれ、行田市教育委員会の基金の補助により、当時の全日本強化コーチの指導を受けた。また、日大の協力により指導者講習会も開催された。このとき、ハイレベルな内容と、無理のない力学的な近代卓球を学び、大変実りのある講習会となった。同時期には当時、高校卓球界No

1と言われた熊谷商業高校の練習に参加する機会を得た。のちに世界選手権日本代表となる選手達との練習により、卓球に対する意識が大きく変化した事は間違いない。

昭和60年、行田クラブは埼玉県卓球協会に加入後5年目にして埼玉県クラブリーグの一部リーグに昇格し、長年の念願だった埼玉県大会初優勝を果たすことができた。また、実業団として初めて当時の電元オートメーション(株)が埼玉県の軟式大会で優勝した。同社チームからは、国体代表選手を輩出、更に行田クラブは全国クラブチーム選手権に出場するなど黄金時代を迎えた。

2. その後の歩み

全国大会及び全国大会に県代表を輩出し、埼玉県団体戦でも幾度となく優勝していた昭和55年頃～平成10年頃までを行田市卓球連盟の上昇期とするならば、その後の10年間は安定期と言える。

選手育成を中心とした活動はもちろんだが、埼玉県卓球協会及び諸団体との連携活動に力を入れてきた。

特に平成16年秋の全国障害者スポーツ大会においては、地元埼玉県の競技役員・委員として4年前から準備に参画し、本大会の成功に大きく貢献したと言えよう。上記の大会をきっかけにして、連盟役員が公式審判の資格取得にも力を入れ、競技者、審判の両方から卓球を見られるようになった事は、卓球競技を続けて行く上でも大きな変化となった。公認レフェリーの資格を取得した役員も在籍し、世界選手権代表選考会、日本リーグ、国体、インターハイ等の国内公式大会の審判を務めたこともあった。

行田市卓球連盟としては、上記の全国障害者スポーツ大会終了後も埼玉県と連携をとり、各障害者卓球大会にボランティアとして毎年参加を続けている。また、友好都市間とのスポーツ交流にも力を入れ、平成14年7月に行田市に於いて桑名市、白河市と親善卓球大会を開催した。

その他の活動としては、市民卓球大会を、春季・夏季・秋季・冬季の年4回の予定で開催している。卓球愛好者、競技選手により、個人戦に於いては延べ300名以上の参加があり盛況な大会となっている。

なお、行田市卓球連盟には20の団体が登録して

おり、主に公共施設を使用してレベルアップや健康増進を目的として練習に励んでいる。

3. 友好都市スポーツ交流（卓球競技）

- 平成4年7月 行田市開催
- 平成5年5月 桑名市
- 平成12年10月 桑名市
- 平成14年7月 行田市
- 平成25年10月 桑名市
- 平成29年11月 白河市



友好都市卓球大会

4. 役員等について

行田市卓球連盟、大会を運営する役員としての役職名を置いている。

- | | |
|------------|-------------|
| (1)名誉会長 | 1名 |
| (2)会長 | 1名 |
| (3)副会長 | 2名 |
| (4)理事長 | 1名 |
| (5)副理事長 | 1名（大会委員長兼務） |
| (6)審判長 | 1名 |
| (7)副審判長・記録 | 1名 |
| (8)進行 | 6名 |
| (9)会場設営 | 1名 |
| (10)表彰・記録 | 2名 |
| (11)大会役員 | 2名 |
| (12)会場等準備 | 連盟登録チーム |

5. 今後の課題・展望

行田市卓球連盟として2つの大きな目標を掲げている。

最初の目標は、全国大会への選手輩出である。平成30年6月、埼玉ベテラン卓球大会兼埼玉県民総合大会男子40代の部で優勝選手が出たものの、

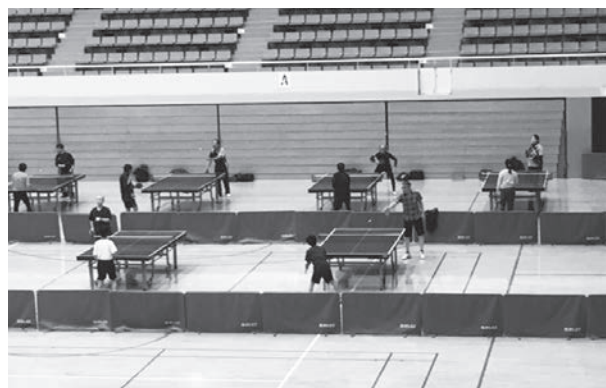
ここ数年は全国大会出場や県大会上位で活躍できる選手が出ていない。今後は、連盟が中心となって卓球教室やジュニア層のレベルアップを目的とした日本代表選手等を招待しての卓球講習会の開催していきたい。

2番目の目標は、市民大会の安定的な参加人数を図ることである。

近年の卓球ブームを反映して全体的な卓球人口は増加していると思われる一方で問題点を多々抱えている。少子化による中学高校生参加者の減少、参加者全体の年齢層上昇などである。

卓球は、年少者から高齢者まで幅広く楽しめるスポーツなので、広報活動等を強化して参加者の増加を図りたい。

上記2つの目標を達成することによって「元気な卓球連盟」にして行きたい。併せて、行田市体育協会の協力を得ながら将来的には「オープン卓球大会」開催を模索したいと考えている。



クラブチーム練習風景

行田市バドミントン連盟

1. 沿革

教育委員会主催のバドミントン教室の参加者達の協力を得て、昭和47年12月行田クラブが発足しました。翌年48年4月には同クラブを幹に連盟を結成し、市体育協会及び県バドミントン協会に加入しました。昭和56年頃よりバドミンントンの愛好者が多くなり、行田市教育委員会、地区体育協会の支援を頂き市内各小学校体育館で開いた初心者教室を土台に次々と新しいクラブが誕生しました。

平成25年11月、アイトピアにて連盟創立40周年記念式典及び祝賀会を開催しました。

また平成26年20年以上ご尽力を頂いた磯井貞夫名誉会長が旭日双光章を受章し連盟会員、行田バドミントンスポーツ少年団とともにアイトピアにて盛大にお祝いをしました。

行田市バドミントン連盟の活動としてはグリーンアリーナや市内地域体協ごとに開放された学校体育館を継続的な練習場所としてきました。

行田市体育協会・地区体育協会の協力を頂いた各種大会の実施や初心者バドミントン教室、中学生強化練習、ジュニア指導などの活動も継続してきました。



第46回市民バドミントン大会

平成30年11月18日に行田市はもちろん市外の沢山の方にもご参加頂きました。



開会式では工藤正司市長からご祝辞を頂きました。



表彰式～

活動状況

平成30年度事業

- 4月14日(土) 第44回定期総会
- 7月 1日(日) 第31回会長杯
- 14日(土) 市内中学生練習会
- 11月18日(日) 第46回市民大会

平成31

- 1月19日(土) 第35回中学生S大会
- 2月16日(土) 小学生S大会
- 17日(日) 市内クラブ交流大会

初心者バドミントン教室

- 毎週木曜日 午前10時～12時 5回
- 会場 グリーンアリーナ
- 5月10、17、24、31、6月14



市民大会の記録

平成21年～30年までの記録を掲載したいのですが、膨大な量になってしまうので残念ですが平成26年以降の各優勝者のみを掲載します。

平成26年

男子1部 小堀 福島
2部 成田 斉藤
3部 齊藤 天野

女子1部 荻野 井上
2部 小堀 對馬
3部 中島 中島

中学1年 菊地 小堀
2年 二平 関口

平成27年

男子1部 安部 長谷川
2部 市川 斉藤
3部 清田 岡部

女子1部 野崎 横川
2部 飯島 岡田
3部 吉田 中島

中学1年 中山 小川
2年 小堀 菊地

平成28年

男子1部 小堀 本田
2部 黒須 平山
3部 清田 今井

女子1部 蓮見 中島
2部 山銅 渋谷
3部 浅見 大橋

中学1年 久保田 田中
2年 河野 金山

平成29年

男子1部 耳塚 神田
2部 渋沢 江原
3部 萩原 伊藤

女子2部 倉澤 桜井
3部 中村 笠原

中学1年 石川 宇根
2年 岡本 木村

平成30年

男子1部 高橋 高橋
2部 森川 佐藤
3部 杉本 杉本

女子1部 高橋 蓮見
2部 染野 佐藤
3部 駒井 小林

中学1年 今井 池田
2年 江花 中村

2016年 高橋・松友のリオオリンピック金メダルなど日本バドミントン選手の活躍が目立ってきています。

日本のバドミントン人口も増加傾向をたどっており、特に2014年以降の中・高生の伸びが高くなっています。

これからもバドミントンを楽しみ競技として続けていく人達が増えていく事を願ってやみません。

行田市柔道連盟

1. 沿革

行田市体育協会がここに創立70周年を迎え、心より御祝い申し上げます。当柔道連盟においては、92年の歳月を数えこれまでの連盟の足跡を振り返りたいと思います。

行田市は、江戸時代の忍藩のころから明治以降においても武術に統べ、各流派の中、初代会長である吉川栄氏が各流派をまとめあげ昭和2年4月1日に忍町柔道連盟を創立し、柔道の普及を広め戦前中の動乱のなか柔道を辞めることなく続けてきた結果が今日の柔道連盟である。

昭和25年の行田市体育協会創立となり忍町柔道連盟は現在の行田市柔道連盟に名称を変え現在に至る。

ここ10年で若い指導者たちが育ち世代交代が行われた。以前の行田市柔道少年団は、平成30年に善柔会田代道場と名称を変え田代善彦氏が柔道場を引継ぎ子供たちに指導している。

行田市柔道連盟 歴代会長

- ・初代 吉川 栄 (昭和2年～昭和35年)
- ・二代 小池 信一 (昭和35年～昭和37年)
- ・三代 田島 孝夫 (昭和37年～昭和39年)
- ・四代 植田 次郎 (昭和39年～昭和45年)
- ・五代 鈴木 栄 (昭和45年～昭和55年)
- ・六代 藤間 敢 (昭和55年～昭和61年)
- ・七代 吉澤健四郎 (昭和61年～平成4年)
- ・八代 大嶋 豊之 (平成4年～平成8年)
- ・九代 村田 次郎 (平成8年～平成24年)
- ・十代 木村 靖文 (平成24年～現在)



○九代会長 村田次郎氏は、当連盟の顧問となりまた、埼玉県柔道連盟、北埼玉郡市柔道連盟の顧問として柔道の普及、振興し後輩指導に当たっている。

その結果、村田次郎氏、木村靖文氏、堀内安定氏の3名が日本傳講道館の八段となっている。

これは県下でも希少であり、また若い指導者にも熱心に指導し当連盟から20代の高段者（五段以上の者）を多く輩出している。

2. 活動状況

○行田市春季柔道大会

毎年4月17日（現在では17日に近い日曜日）、行田市本丸地内の東照宮例大祭に柔道、剣道、空手道の奉納試合が大正14年から開催され戦前・戦後を通して現在まで続けられている。

現在は第95回目を迎え近隣の柔道選手を招いて盛大に行われている。あと数回で100回の歴史を刻む。



○暑中稽古・寒稽古

大正13年より続けられ現在は行田市総合体育館柔道場で以前と変わりなく午前5時の早朝稽古を行っている。

朝稽古を行う事により、青少年の「心と体」を鍛えようとする先人の意思を引継ぎ毎年夏と冬に行い現在では参加者が行田市内だけではなく、近隣にまで認知されて多くの参加者を得ている。

今後も変わりなく青少年の健全な精神と体力の向上を図る目的で実施していくものである。



3. 登録チーム

○行田市柔道連盟

会長 木村 靖文

各指導者が柔道の普及、発展を行い若い指導者の育成や行事や大会の運営、企画・立案を行う。

○徳明館 村田道場

館長 村田 次郎

練習日 毎週 火曜・木曜・土曜

練習場所 村田宅併設の柔道場

○善柔会 田代道場

(平成30年4月行田市柔道少年団より名称変更)

代表 田代 善彦

練習日 毎週 月曜・木曜

練習場所 行田市立忍中学校 武道館

4. 大会出場の記録

○徳明館 村田道場

平成26年 埼玉県道場対抗柔道大会 3位

○大谷 信喜

平成24年・25年 関東高段者大会 出場

平成25年・26年・27年・28年
全国高段者大会 出場

○小林 憲治

平成21年・24年・25年・26年・27年・28年・29年
全国高段者大会 出場

平成24年・25年 関東高段者大会 出場

平成25年 埼玉県民警親善柔道剣道大会 3位

平成27年 埼玉県民警親善柔道剣道大会 優勝

○大谷 健太

平成25年 関東高等学校柔道大会 出場

平成26年 東京学生柔道二部優勝大会 優秀賞

○松田 倫太郎

平成25年 関東高等学校柔道大会 出場

平成26年 全国高等学校柔道大会県予選会
100kg超級 準優勝

平成26年 関東ジュニア柔道体重別選手権大会
出場

平成27年 埼玉県高等学校柔道選手権
無差別級 3位

平成27年 全国高等学校柔道大会県予選会
100kg超級 準優勝

平成27年 埼玉県民警親睦柔道剣道大会 優勝

○小川 大樹

平成29年 埼玉県柔道整復師会柔道大会

中学2年生の部 優勝

平成30年 埼玉県柔道整復師会柔道大会

中学3年生の部 優勝

平成30年 学校総合体育大会柔道大会県予選会
-90kg級 3位



(進修館高校 柔道部 関東高等学校柔道大会
祝20回出場 平成25年)

5. 行田市柔道連盟 役員 (平成30年度)

顧問 村田 次郎

会長 木村 靖文

副会長 堀内 安定・角田 和平・大谷 信喜

監査 久保秋賢治・栗原 憲司

事務局 小林 憲治・田代 善彦

6. これから

時代の流れと共に人口の減少、少子化や指導者の高齢化など柔道を取り巻く環境は厳しい状況であるが、当連盟としては若い指導者の育成に力を入れ審判員の指導・向上を行い、そして、地域の子供たちに柔道を普及し健全な精神と体力の向上を目的に社会に貢献できる人間育成を目指すものです。

今後、柔道を学んだ子供たちが成長し、そして指導者となり次の世代に伝えられる環境整備を推進し「柔道という楽しさ」を後世に伝えていく事が我々の責務である。(文責 小林 憲治)



行田市剣道連盟

1. 沿革

当市における剣道は、明治18年忍東照宮境内で「東照宮大祭奉納武道大会」が挙行されて以降、明治大正から昭和初期にかけてこの大会が中心的行事となり、その運営を通して発展してきたものと思われる。

昭和20年第2次世界大戦敗戦により剣道が禁止されたが当市の柔道家吉川栄氏が柔道場を開放、有志が集まり小澤愛次郎範士を招聘して伝統の灯を守った。

昭和27年講和条約発効を機に剣道復活の動きが活発となり、全日本剣道連盟が組織され各都道府県にも剣道連盟が組織されていった。

当市剣道連盟は昭和28年行田と羽生を併せて第一歩を踏出し、昭和46年には羽生の独立により行田市単独の組織となって現在に至っている。

明治18年から始まった東照宮奉納武道大会は、昭和31年名称を「行田市春季武道大会」と改め、市主催により行田市民体育館で行われるようになった。

平成7年には待望の総合体育館が完成し、以後は大会の開催場所を総合体育館に移して毎年盛大に行われている。



行田市春季剣道大会

日本剣道形 当連盟会員による模範演武



行田市春季剣道大会 試合風景

過去10年間の活動

柔道空手道と合同で実施されてきた行田市春季武道大会は、それぞれ単独で行われるようになり「行田市春季剣道大会」と名を変えて県内はもとより群馬や東京、神奈川からの参加も得て毎年実施されており、昨年（平成30年）も第134回大会が134チーム656名を迎えて盛大に執り行われた。

昨今ますます少子化が進行しており剣道人口の減少も顕著となっている中であって、この春季剣道大会が維持継続されていることは連盟会員の努力と情熱の賜物にほかならない。

この大会のほかには、全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会埼玉県予選会ならびに埼玉県剣道大会小学生の部の選手選考を兼ねた小学生剣道大会と、剣道を始めて間もない児童から一般高校女子まで市内青少年の稽古の成果を披露する青少年剣道大会を毎年実施している。

また各連盟会員は、それぞれが所属する「荒木少年剣道部」「行田市少年剣道部」「剣忍館」「埼玉少年剣道部」「持田剣道クラブ」の各団体および「行田警察ひまわり剣道教室」において各地区の少年少女の指導育成に努めるとともに、会員自らも合同稽古会や講習会に参加して研鑽を重ねており、この10年間で七段11名六段7名の合格者を出し、現在七段15名六段9名を擁するまでになっている。

今後について

今後一層の少子化が進む中で、如何にしてより多くのこどもたちやその保護者に剣道の良さ楽しさを理解してもらうか、そしてやってみようとい

う気持ちにさせるかが鍵となる。具体的な方策については更に検討を重ねていかなければならない。

もう一つの課題は高齢化対策である。当連盟でも全会員の内60歳以上が過半数を占めており若手会員の加入促進を図っていかなければならない。

剣道は全日本剣道連盟が制定した剣道の理念「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」にある通り、普段の稽古や試合を通して心身を磨き気力を養い礼節を大切にして心豊かな人間の育成を目的としているものである。

当連盟会員はこれからも合同稽古会等で切磋琢磨し、講習会で自己の研鑽に努め、地域の青少年の指導を通じて心身ともに健全な人間を育てて行田市体育協会の隆盛および剣道の伝承発展に寄与していく所存である。



合同稽古会 少年剣士の稽古風景



合同稽古会 連盟会員の稽古

役員について

○連盟役員

顧問	南澤 肇	長谷川定男
会長	廣島正人	
副会長	萩原 宙	中橋隆夫
事務局長	伊藤成行	
副事務局長	小檜山泰治	
会計	高橋栄一	
理事	加藤輝男	仲 稔 福田彰男
監査	江原史郎	中武貞美

○埼玉県剣道連盟役員

評議員 加藤輝男

○市体育協会

理事 伊藤成行
評議員 小檜山泰治 高橋栄一



連盟役員および稽古会参加の先生

当連盟所属の団体

- ・荒木少年剣道部 (福田彰男)
- ・行田市少年剣道部 (仲 稔)
- ・剣 忍 館 (萩原 宙)
- ・埼玉少年剣道部 (長谷川定男)
- ・持田剣道クラブ (南澤 肇)

行田市アーチェリー協会

1. はじめに

行田市体育協会創立70周年、誠におめでとうございます。行田市アーチェリー協会も1971年（昭和46年）に設立し、2021年には創立50周年を迎えようとしています。この間の体育協会や各団体の皆様の御協力・御支援に感謝申し上げます。

2. アーチェリーの紹介

アーチェリーは、紀元前2万年（旧石器時代）頃、狩猟のために弓矢を使用したのが始まりとされています。そしてその後、武器として使用されるようになり、今のようにスポーツとして確立されたのは、16世紀にイギリスの王ヘンリー8世がアーチェリーのコンテストを開催したのがきっかけでした。日本でアーチェリーが本格的に行われるようになったのは、1950年代後半に入ってからです。

アーチェリーは使用する弓の形状により「リカーブ部門」と「コンパウンド部門」に分かれます。「リカーブ部門」の弓は、弓の両端部分が反り返っており照準器・スタビライザーなどのアクセサリを装着します。オリンピックや国体ではこのタイプの弓を使用します。

「コンパウンド部門」の弓は、弓の両端部分に偏芯滑車が付いており、この作用によって引き重量が途中で軽くなり引き易く射ちやすくなります。

「リカーブ個人戦」では、70mの距離から制限時間4分以内に6本射ち、これを12回繰り返します（計72射）。この競技を70mラウンドと言い、国内では、このラウンドだけを単独の競技会として、数多く実施されています。

標的の直径は122cmで、5色の色環帯（中心から黄、赤、青、黒、白）で構成され、これがさらに2個ずつの得点帯に分割され、直径12.2cmの中心円が10点、外に向かって1点ずつ少なくなり、最外側の得点帯が1点になります。

全日本選手権では、70mラウンドが予選となり、決勝ラウンドではトーナメント方式となり、1対1のマッチ戦が行われます。また優勝のかかる決勝戦では、二人の選手が交互に20秒の制限時間で1本ずつ射ち合います。

3. 沿革

昭和46年：設立 県内3番目のアーチェリー協会として埼玉県アーチェリー協会に加盟

30m・50mのみでスタート

昭和47年：30m・50m・70m・90mのオールラウンドの射場が完成、選手を強化して県大会に出場

昭和49年：県大会に入賞者が出る
小林重夫氏が県協会の副会長・副理事長に選出される

昭和50年：関東大会に初出場
県大会に入賞者が複数出る
この年以降、毎年県大会に複数の入賞者が出ている

昭和51年：小林重夫氏が法政大学アーチェリー部の指導を始める
大学は5部リーグに所属

昭和52年：法政大学は4部リーグに昇格

昭和53年：県立行田商業高校（現在の進修館高校）アーチェリー部の指導を始める
法政大学は3部リーグに昇格

昭和54年：法政大学は2部リーグに昇格

昭和55年：アーチェリーが国体に加入
この年の栃木国体に1名出場
小林重夫氏が国体の監督に就任

昭和56年：国体に2名出場

昭和57年：全日本選手権に1名出場

昭和58年：全日本選手権に1名出場

平成3年：高校の指導を終了 この間インターハイ出場1回

↓

↓

↓

平成16年：埼玉国体が開催

平成19年：全日本ターゲット選手権1名出場

平成20年：全日本ターゲット選手権個人2位

- 平成21年：国体に1名出場
全日本ターゲット選手権1名出場
全日本社会人選手権1名出場
- 平成22年：全日本ターゲット選手権1名出場
全日本社会人選手権1名出場
- 平成23年：全日本ターゲット選手権1名出場
全日本社会人選手権 個人優勝
- 平成24年：国体に出場 個人3位 団体優勝
全日本ターゲット選手権1名出場
全日本社会人選手権 個人2位
- 平成25年：全日本ターゲット選手権1名出場
- 平成26年：全日本ターゲット選手権1名出場
全日本社会人選手権 個人2位
- 平成27年：関東大会1名出場
国体に出場 団体6位
全日本ターゲット選手権1名出場
全日本社会人選手権 個人3位

4. 今後の活動方針

我々、行田市アーチェリー協会は今後の活動として、底辺の拡大と技術の向上に努め、また生涯スポーツとしての普及に向けて、講習会や初心者教室を実施し、より多くの方々にアーチェリーの魅力を知ってもらえるよう努めてまいります。

5. 平成30年度役員名簿

会 長	小林 良一
副会長	小林 重夫
理 事	前島 潔
〃	長島 巖
〃	松井 孝夫
〃	篠山 孝次
〃	山田 雅暁

県協会役員

副会長	小林 重夫
理 事	小林 良一
評議員	前島 潔



アーチェリー協会設立の頃



大会の様子

行田市スキー連盟

1. 沿革

当連盟は昭和26年4月に設立され、埼玉県スキー連盟（以下「県連」）への加入は県内5番目（現在は62市町村が加盟）とかなり早い時期の加盟と聞いております。

昭和40年代を挟んでスキーブームが続き、当連盟でも市民スキー講習会がスキーバス5、6台分の参加者を集め、盛大に行われ、この日程のなかで大会等も行われたと聞いております。当連盟会員も昭和60年代には100名近い規模となり、市内各地区のスキーバスも盛んに企画されていた様でした。

時代も平成へと移り変わり、バブル経済崩壊以降レジャーとしてのスキーブームは去り、技術の取得や競技を目標とするスキーがこの種の団体の現実的な活動となっていきました。いわゆるレジャー的なスキーを行う人々は連盟等に加入して活動する形から個人ないし仲間どうしで楽しむという形に変化していき、当連盟はその変化に対応できない状況が長く続いていくこととなります。

結果として連盟所属者の数も減少し、いわゆる技術指向で資格取得を目指すものや、少数の競技指向の愛好者が会員になるという形に絞られてきました。

平成11年の奥利根スキー場での市民スキー大会を最後に当スキー連盟単独開催の大会は参加者不足のため中断となり、その後平成18年に他市との合同開催で再開したものの、やはり参加者を確保できず、その年で再び中断となり現在に至っております。

また、一般市民向けの講習会も開催していましたが参加者の確保ができず連盟会員向けの講習会を細々と続けているのが現状です。

長年会長職にあった村田が平成30年に高齢のためその座を退くこととなり、また同時に退会者もあったため現在10名程度の会員規模となりました。

2. 活動報告

近年は指導資格等の取得、県の技術選手権大会への出場、各種アルペン競技大会への出場などを主たる活動としてきました。

資格取得者は下記の通りとなります。

平成22年公認パトロール合格1名

平成27年C級検定員合格1名

公認パトロール合格1名

平成28年指導員合格1名

準指導員合格1名

平成30年指導員合格2名

B級検定員合格1名

個々の実績としては、平成30年より当連盟会長の田澤は平成21年度及び平成23年度2期4年県デモンストレーターに選出されました。

前会長の村田は全日本マスターズ選手権へ連続出場し、平成27年の八幡平大会においては75歳代で入賞（9位 50人中）を果たしました。尚、この全日本マスターズ選手権には三上も出場しました。

さらに村田は平成27年冬季国体（群馬）では県スキー競技の監督を務め、埼玉は皇后杯7位に入賞しております。

県連関係では、村田は県連理事を歴任し、田澤は長年県連教育本部企画委員会委員を務めました。

年に1～2回程度講習会を開催しておりますが、一般参加も可能であるものの周知不足ということもあり実際には会員の参加のみとなっております。



埼玉県スキー技術選手権大会 田澤選手



全日本マスターズスキー選手権 村田選手

※役員（平成31～32年度）

会長 田澤 健一
理事長 我田 浩隆
理事 茂木 利夫
事務局 田澤 健一

※所属クラブ（平成30年10月現在）

アドバンスキークラブ
アドレススキークラブ

※有資格者（平成30年10月現在）

指導員 6名
準指導員 2名
B級検定員 3名
C級検定員 2名

※上部団体関係（平成31～32年度）

埼玉県スキー連盟
評議員 田澤 健一
教育本部 指導委員会 秋本 賀子